

ロシア革命に於ける
労働者と農民の結合

農民コミンテルン編
林 柁 木 譯

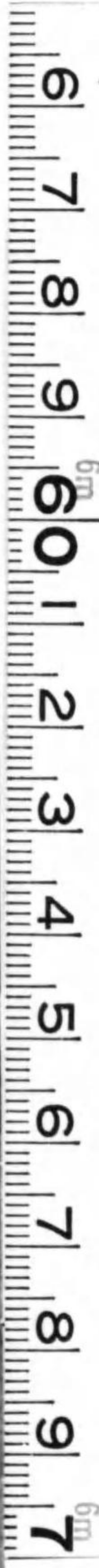
1929

マルクス書房

特232

434

始



特232
434



ロシヤ革命に於ける
労働者と農民の結合

農民コミンテルン編

林 柁 木 譯



ロシア革命の歴史
革命の歴史と書物

著者
編者

1931

目次

第一章 ロシヤ農民と一九一七年二月の諸政黨……………(一)

第二章 市街戦期に於けるサヴェート権力と農民……………(一二)

第三章 ロシヤ革命に於ける労働者と農民の結合……………(二六)

第四章 サヴェート農村の社会的及び経済的進化……………(三九)

第五章 サヴェート農村の政治政治……………(五六)

第六章 サヴェート平和政策の根底……………(七〇)

第七章 社会主義サヴェート共和国同盟内に於ける教會と國家……………(九一)

ロシヤ革命に於ける
労働者と農民の結合

第一章 ロシヤ農民と一九一七年二月の諸政黨

一 如何なる勢力がツァーリズムを倒壊したか

世界大戦は、延び延びて數年間に渡り、無数の窮乏に伴はれて、労働者階級と搾取階級との社會的對立を極點にまで増大した。貧困は非常な速度を以て擴がり、不満は、國內と同様に××内に絶えず増大した。

一九一七年の初頭に此の不満はその頂點に達した。饑餓が特に労働者に激しかった。ペテログラードでは『戦争を止めろ！』『パンを與へよ！』云々と叫んで、五月の始めには労働者の示威運動が行はれた。此の運動は急速に町のあらゆる工場を獲え、その×起には××も加はつた。恚うしてほんの數日の間に労働大衆は、唾棄してまたツァーリズム、××制を打倒したのである。

こんな短期間に、何うしてツァーリズムとその全支配機關を×覆ることが出来たのか？ それは先づ第一に、世界大戦が労働大衆の階級意識を増大し、益々強固にすることに大いに貢献してゐたからだ、彼等は既に一九〇五年にツァーリズムに對する第一回の襲撃の經驗を持つてゐたのだ。第二の理

由は、平和と土地とを要求してゐた農民（即ち×隊）と労働者とが闘争同盟を結んだといふことだ、最後に、ロシアの自由主義的資本家と英佛の中間的金融資本家とが共々に闘争した事である。恚うして總べての階級が當然其の階級的利益を追つた。ロシアのブルジョアジーと外國の資本家連とはニコラス二世を倒壊せんと欲した、彼等は彼の人物と彼の方法とではこの戦争を勝利に導くことは不可能だと思極めを付けたからである。労働者と農民とは、反對に『パンと平和と眞實の自由』（レーニン）とを獲得する爲に戦つたのである。

二 ツアーリズム没落後の政權は如何に構成されたか？

革命は二月十三日（舊曆二月二十七日）に勝利し、其の同じ日にペテログラードに労働者農民のサヴェートが組織された。又同時にデューマの委員會が臨時政府を選定した。恚うしてツアーリズム没落後忽ちに二個の政府が出現したのである。即ち、一方はブルジョアの臨時政府、他方はサヴェート之は其のはじめは猶未だ弱い、躊躇しがちな、だが明らかに労働者と農民の政府なのであつた。特に注意すべきは、サヴェートは、云はば自分の權力を自分から臨時政府に託してゐたといふ事だ、と云ふのは二月中ペテログラードの總ての權力を掌握してゐたのはサヴェートだつたからである。臨時政

府は自分に従ふ軍隊も、大衆を統御し得る警察も持たず、全權力はサヴェートの掌中にあつたのである。サヴェートはこの權力を、ルオフ公といふ大地主を總裁として新に出來た臨時政府に返還したのである。社會革命黨のケレンスキーは此の政府に司法大臣として入閣した。總て恚ういふ風になつたのは、當時サヴェート内の主權が少ブルジョア社會主義黨、社會革命黨及び社會民主黨メンセヴィキに屬してゐた爲である。

かくて二月革命においては民主主義的ブルジョアジーが勝利を獲得したのである。此の革命の主要なる特長は、革命の初に當つて社會主義労働者革命としての萌芽がとち込められてしまつたといふ事にあるのだ。がそれこそは、其の後間もなく、即ち同年の十二月にこの臨時政府を××し、労働者と農民の政府を打建てずには置かなかつた處のものだ。もし我々が、今、此の過渡期に於けるロシアの諸政黨の見地をば、農民にとつて最も重要な又最も現實的な問題から觀察して見るならば、我々は同時に十月の勝利を獲得した力が如何にして養はれ得たのか、成熟し得たのか、それを合せて理解するであらう。

三 戦争問題に於ける諸政黨

數百萬の勞働者と農民の心を最も強く占領して來た問題、それは、長い間ずっと續いて來た戦争の續續と云ふことであつた。

臨時政府は、平和談判等思ひも及ばず、此の恐るべき殺 \times を停止させ様とはしない、反對にツアーがやつたよりも、最も精力的に、猶戦争を繼續することを重要な任務としたのである。その外務大臣であり、英國ブルジョアジーの忠實な従僕であるミリュール教授の口を通じて、臨時政府は一九一七年四月同盟國に向つて、ツアーと協約國との間に締結されてゐた總ての舊條約は、革命後と雖も有効に存續するものである旨を宣言した。臨時政府はドイツに對する完全な勝利を得るまで戦争を繼續するものであることも自ら宣告したのである。

社會革命黨とメンセヴィキの見解は大體に於て殆ど相違しないものである。彼等は、戦争の繼續は獨逸の帝國主義から革命の成果を守る爲に必要であると強辯して、これを勞働者農民大衆に承認せしめ様としたのである。兩政黨は戦争の繼續の爲には最少の口實をも利用した。彼等は、臨時政府が資源を手に入れる爲に投じた處の『自由公債』を支持し、戰場に於けるロシア兵士と敵軍との親交を罰した。この $\times\times$ こそボルセヴィキ（今日の $\times\times$ 黨）がそのアヂテーションを行つてゐたのに。彼等は

又、ボルセヴィキが、ツアーと同盟國とによつて締結された秘密條約を公表せよといふ臨時政府への提議に反對した。それどころか、七月十八日に臨時政府がドイツ、オーストリーの戦線に對して悲しむべき攻撃を開始した時には、社會革命黨とメンセヴィキとはこの攻撃の爲に精力的なアヂテーションを行つたのである。

唯、ボルセヴィキのみが、唯レーニン黨のみが無條件的にこの $\times\times$ 戦争と戦ひ、その全勢力を擧げて、平和を憧憬してゐる大衆を鼓舞したのであつた。大衆は漸時自分自身の經驗から、平和は、レーニン及びボルセヴィキが教へた通り、農民と同盟した勞働者階級の手 \times 力を移すことなくしては、招來されぬものであることを承認するに至つた。

四 諸政黨と土地問題

ロシアに於ける數百萬の農業勞働者は長い間土地問題の解決に焦慮して來た。革命後彼等は、今こそ急速に土地を新らしく配分することを期待したのである。

然るに、自由主義的ブルジョアジー並びにその黨たる『カデット』黨（立憲民主黨）は二月革命後約束を持つて農民を養ふ様なことしか考へなかつた。彼等は、農地問題の解決を小作委員會なるもの

に移す等と語つたのであるが、この委員会は農民と大地主とから出た同数の代表と政府の一機關に從屬してゐる會長とから成つてゐるのであつて、農民がこんな委員會から大したものゝを期待し得なかつたことは固より當然なことであつたのだ。農民は總體として初め社會革命黨を信用した。彼等は貴族の財産を分配しようと望んでゐたのである。處が社會革命黨は何と云つたか？ 彼等は分配の爲には來るべき議會の決定を待たねばならぬと云ふことを農民に承服させる手段を探したのでつた。處で議會は、社會革命黨によつても、メンセヴィキによつても、隨つてブルジョアジーによつても、平和の確定以前には召集され得ないのだ。然らば平和はどうかと云へば、既に我々が見た通り、彼等によれば獨逸への完全な勝利の後でなければ齎され得ないのだ。かくて社會革命黨並びにメンセヴィキは次の様な口實を農民に提出したのである。『土地を分配する爲に議會の召集を待て、議會の開催の爲には戰爭の終結を待て、戰爭の終結の爲には決定的な勝利を待て！』と。其の後しばらくして社會革命黨の指導者キクトル・チエルノフが臨時政府の農務大臣に任命された時、社會革命黨の連中は土地を農民に與へる爲に、立つたものを横にすることさへしなかつた。

農民が、一九一七年の秋のはじめに、廣大な土地を自を以て分配しようと決心して、其の主要な

場所に陣取つたと云ふことは理解するに難くはない。社會革命黨やメンセヴィキやカデット黨左翼の指導者達の同盟によつてクレンスキー總理の下に、スキに乗じて作り上げられた臨時政府は、茲にても亦、農民に懲罰身分書の手段を弄して服従を強制したことによつて、その反革命的正體を曝露した。

社會革命黨は恠うして會つて彼等を信任してゐた農民を裏切つたのだ。農民は今こそこの黨が彼等の正當な要求を満すべき意志も亦その能力も持たぬものであることを見たのであつた。

こゝに於ても亦、ボルセヴィキが農民の要求を勝ち取らしむべく、土地を農民労働者に返還すべく決意した處の唯一の黨として現はれたのである。最早議會の召集を待つべきではない。農民は彼等自ら労働者階級と同盟して、直接に土地を×××××ければならぬ。かくの如きがボルセヴィキのスローガンであつた、而してこれが次第に共鳴者を得て、間もなく國民の大多數を獲得したのである。唯サヴェートの権力が一九一七年の十月に土地問題を農民大衆の利益の爲に解決したのである。プロレタリアの××勝利が農業労働者に、その舊搾取者、舊×刑執行人の領土を返還したのである。

五 何故ボルセヴィキは十月の勝利を獲ち得たか？

小ブルジョア諸黨即ち社會革命黨とメンゼヴィキとは臨時政府を支持して權力をブルジョア階級の手の中に維持せしめんと努力してゐた。彼等は戦争の繼續に賛成し、大領地の直接の分割に反対した。彼等は階級闘争を緩和し、労働者農民の革命的意識を眠らせる爲に如何にして大衆を感化すべきかを研究してゐた。彼等は即ち助手なのであつた。先づ最初に恚うした諸政黨に欺かれた労働大衆は間もなくメンゼヴィキと社會革命黨の恥づべき任務を理解した。然も六月の例の悲しむべき攻撃こそは之等の政黨が革命の初めに大衆の上に持つてゐた感化力の爲に生じた處の決定的な打撃であつたのだ。労働者農民の壓倒的大多數はこれらの小ブルジョア黨を放棄してボルセヴィキに移つた。ボルセヴィキの影響力は日に日に増大しつゝあつたのである。ボルセヴィキの眞に革命的なスローガンこそは労働大衆の最も根本的な利益に應じてゐたのだ。ボルセヴィキは之等のスローガンを實現する爲には如何なる犠牲の前にも決してひるまぬものであることを、自らのあらゆる革命的行動によつて實證した。一九一七年の夏の終りには、ロシアの民衆は唯々ボルセヴィキの掌中に移すことのみが、X隊に平和を、農民に土地を、然してこの宏大な帝國の全住民に自由を保證し得るのだと云ふことを既に知つてゐた。斯くの如きがプロレタリア及び農民労働者の壓倒的大多數がその闘争の過程に何らの躊躇もなくボルセヴィキを支持し、その指導者に、如何なる黨と云へども未だ會て受けたことのない無限

の信任を與へた處の原因なのである。

一九一七年の八月反革命將軍コルニコフがクーデターを以てツァーリズムの再興を計らんとベテログラードに進軍を企んだ時ボルセヴィキが誘導した攻撃のみがよく革命を救ひ得たのだと云ふことは何人にも明白だ。ボルセヴィキのサヴェートはこの時から凡ての地方にX装せるXを用意したのである。Xの同情はボルセヴィキの側にあつた。國內には赤色守備Xが組織されてゐた。怎うして十月中に、労働者階級並びに勤勞大衆は革命X士、農民の支持を得て、レーニンと其の黨の天才的指導の下にプロレタリアXを勝利にまで導いたのである。ケレンスキーに對する闘争は短期間であつた。バルチック艦隊も亦この叛Xを支持し十一月七日(舊曆十月二十五日)から労働者農民兵士のサヴェート第二回大會は舊制度のX覆、並びに労働者農民のサヴェート共和國の成立を宣言した。反革命のケレンスキー並びにその同僚は逃げ出し、勞農新政府は斷呼としてそのプログラムの執行に就いた。それは此の革命の成果を都市並びに農村の労働大衆に永久に保證したのである。

第二章 市街戦期に於けるサヴェート権力と農民

一 社會革命黨及び社會民主黨メンセヴィキが如何にサヴェート権力と抗争したか？

十月革命の翌日ケレンスキーを頭に戴いた社會革命黨はペテログラード附近に野營した、コザックと士官候補生との支隊を革命首府の攻撃に向け様と努力してゐた。モスコイでは、市長の社會革命黨員を頭目とする反革命的諸團體の統一委員會が組織した士官隊と一週間も對戦を續けた後にサヴェートは漸く打ち建てられたのであつた。

これらの公然たる攻撃が失敗に歸した時、反革命軍はあらゆる奸計陰謀を企て、國內を混亂せしむる爲に鐵道その他の技術的建築物を爆破した。サヴェート権力を轉覆する爲には、メンセヴィキ並びに右翼社會革命黨はブルジョアジーとプロックを造ることさへも躊躇しなかつた。ロシヤ、魅生の爲の同盟と名付けられたグループを用ひて、サヴェート権力に對する鬭争に、世界大戦中にロシヤ・ツァーリストと同盟した外國帝國主義権力の代表が参加したのである。

社會革命黨とメンセヴィキは、殊に前者は、サヴェート権力に對抗する凡る手段を盡してゐたが、民衆に對する影響力を完全に失つてからは、遂に外國から金銭と代表の派遣とを受けるに至つた。

見よ、社會革命黨の活動的な黨員であつたボリス・ザヴィンコフが云つてゐることを。彼は裁判を受ける時判事の前で、數多の反革命的團體の一つである『祖國の自由の救済同盟』が一九一八年の春及び夏にしてかした色々な行動に對して次の如く云つてゐるのである。

……該同盟が結成された時、私は先づ第一に、この最後の兵力を以てモスコイに参加する積りでありました。若し佛蘭西人達即ちグルナル領事や、ヌーラン大使の名で活動してゐた大使館付武官ラベルニュが私に同盟諸國がロシヤの戦線における獨逸に對する戦争は繼續し得るものであるものと認めてゐると公言しなかつたならば、恐らく私は遂にこの計畫に止まつたでありませう。私は有力な兵力をひきいた英佛軍がその「ムアルゼンチン」へ上陸するであらうと云ふ話を聞かされました。この上陸は國×の武×的氾濫によつて支持される筈でありました。その計畫は次の如くです。上流ゾオルガの占領、次に英佛軍はこの氾濫を支持する。ゾオルガはモスコイ進軍の根據地として役立つ。我々の任務はイエロスラヴエーリ・ピンスク・コストロマ、及びムーロム等を占領するこ

と、佛蘭西軍は彼等の言によればヴォロクダを擔當するであらう………

事實ザヴィンコフは佛蘭西領事の提議を實行に移し始めたのである。その結果として問題の諸都市内にサヴェート兵力の弱點を利用し、氾濫を組織する試みがなされた。だがこの計畫はイエロスラヴィーに於て丈しか成功しなかつた。尤もこゝでは長い間此の不詳な影響が生起しはしたが。

二 フレスト平和條約とは何か又それは農民に有利なものであつたか？

十月革命の翌日からサヴェート委員會は凡ての交戦國に向つて平和締結の勸誘狀を發したが、何らの答は受取ること出来なかつた。

フレストの平和は一九一八年五月に獨逸帝國政府とサヴェート政府との間に、彼のロシヤの西部及び西部の占領を開始した處の獨逸の最後の命令の結果締結された條件である。

戰爭に困憊し、平和に渴えてゐたロシヤの軍隊は獨逸帝國主義の兵力に對抗することが出来なかつた。大部分の兵卒は農民大衆の精神狀態を反映してゐた、そして平和問題に『足で投票』した、即ち戦線を大衆的に×××のである。

或躊躇がボルセヴィキ黨内にも發生したがそれをものともせず、レーニンはこの強盜的平和を締結する必要を説いて、農民大衆は全體として戰爭續行に敵對してゐると主張した。

此の條約批准の二ヶ月後、レーニンはフレスト條約の意義を次の様に説明した——

フレストの平和條約を批准することによつて、我々の保持した處の猶豫期間は既にその結果を見せてゐる。即ち之がロシヤ×土の大部分をして彼等のイロリに歸らしめ、革命の成果を利用せしめ土地を受取らしめ、自分に歸つて將來の鬭争の爲に新しい力を汲み取らしめたのである。

然るに、彼の、自ら農民階級の眞實の擁護者を装ひ、社會革命黨の右翼から分離してボルセヴィキの側に立ち、十月革命に加はつた處の社會革命黨左翼は、此のフレスト平和に反對を宣言して、現實に反革命的役割を演じたのであつた。

社會革命黨左翼は奸計を用ひて獨逸大使館に侵入し、大使ミルパツハを殺し、モスコーにサヴェート政權反對の氾濫を組織せんとした。獨逸大使暗殺は獨逸とロシヤとの間に戰爭を惹起せしめようが爲であつた。だが大衆は社會革命黨左翼に従はなかつた、氾濫は大失敗を演じ、革命を裏切つた黨は

農民大衆の間に一切の信用を失つた。ボルセヴィキ黨はこの時から労働者農民の××的闘争を指導する唯一のものとなつた。

一九一八年の十二月に勃發した獨逸革命はブレスト條約の廢止を惹き起した。之等の出來ごととはやがて、革命防衛の將來の闘争の爲に新しい力を汲み取る必要を説いたレーニンの豫言の正しいことを證據だてたのである。

三 反革命は如何なる勢力の上に立つてゐたか？

十月革命によつて、領地や工場を奪はれた地主資本家共は、共和國の國境上に、世界大戦中ロシア同盟諸國の援を借りて反革命軍隊を組織した。之がやがて一つの連続線をなしてサヴェート・ロシアをなしたのである。

國內に於ける反革命軍を土臺として計畫された氾濫の試みが、一九一八年七月に成功の見込を完全に失つたことが明らかになつた時、佛英兩國政府の出費で、シベリヤを過つて母國奪還の途上にあつた舊囚人達のチエツコスロバツク軍團への干渉が企てられて居た。

ヴォルガ河上のサマラに勃發した氾濫は社會革命黨の一政府を生んだ。だがこれは間もなくコルチ

ヤツク提督の×裁によつて一掃された。

ウクライナに於ては反革命は始め獨逸の占領軍隊に支へられてゐた。即ちオクライナ社會主義政府は、彼等の協力で反動スクロバドスキーの×裁に代られてしまつたのだ。

同じく、極北のアルカンジェルでは社會革命黨員達の援助の下に英佛軍の一隊が上陸した。

かくの如くサヴェート權力に對抗する戦に外國の兵力を使つた社會革命黨の連中は至る處純粹な反動によつて一掃されたのである。

東洋に於ては、コルチヤツクの權力が主として××及び亞米利加の多數の占領軍に支へられてゐた。

南方では、ツアーリズム治下では特權軍隊であつたコザツクを核心として出來上つたデニキン將軍の、續いてウランゲル將軍の白衛軍が、絶えず佛蘭西の軍隊及び船艦の協力を保つて居た。直接の干渉を斷念した外國資本は、特に反革命軍を集合し之等の白衛軍に技術上並びに財政上の援助を與へ始めたのである。

實際よりも遙に少い筈の計算によつても、之等の占領軍は、シベリヤに六萬五千人、南方に五萬人、北方に一萬五千人算へられた。

英國の軍事大臣の數字に依れば白衛軍に對して、英國は大砲一千三十門、彈丸二百萬發、佛國は大砲四百二十四門、砲彈三百萬發を與へてゐる。そして色々な白衛軍の將官に與へられた膨大な金額は彼等は發表してゐない。

かくてブルジョア及び反革命は、植民地によくあると同じ様に、白軍が占領した地域にもぐり込んで外國の帝國主義者達が精力的に支持してゐたのである。

始め、ウクライナ・シベリヤ、及びヴォルガの農民が反革命に對して必要な抵抗を試みなかつた、これはサヴェート權力に反對の煽動をやつてゐた社會革命黨及び農村ブルジョア（クラーク）の影響を受けて出發してゐたのである。處が大地主の復歸やその徵發や專横的×力行動が農民大衆をいたく憤激せしめた、そしてバルチザンの運動が白衛軍の後に絶えず増大して行つて反革命軍隊の破壊に大きな貢獻をした。

四 サヴェート權力と農村との間の關係は如何なる根底の上に

据えられてゐたか？

サヴェート權力の最初の活動は革命の翌日に於ける土地に付いての布告であつた、即ち、大地主、國家、寺院等の一切の領地は無補償で農民の××にまかされたのである。

地方に於ける革命は二つの階段を通過した。その第一のものは、レーニンに依つて次の如く分析されてゐる。

我々は十月には、農民の前世紀からの舊敵、即ち封建的地主たる宏大な土地の所有者を××するに止つてゐた。未だ當時に於ては農民の間には、プロレタリアとセミプロレタリアとの區別、貧農と農村ブルジョアとの區別はなかつたのである。處が革命が農村の中に侵入し、農業労働者が自分の地位を自覺して行くに従つて、富農は貧農に革命の成果を利用させまいと努力し、更に國家による穀物の專賣を妨害せんと試みるに至つた。この獨占なしには、軍隊、都市、工業等々への食料供給は不可能なのだ。

一九一八年の春サヴェート權力は、他人の労働者を搾取しない凡ての農民が参加することの出来る貧農委員會を創設した。この委員會はその事業として、土地、家畜、の正當な分配を行ふこと、國家に必要な、麥の剩餘額を富農から徵發すること等を持つてゐた。

貧農が活動上の熱とか協同一致とか云ふものを修得してから後、サヴェート權力はこれらの貧農と

協同して中農を富農に對する鬭争に立たしめ様と腐心したのである。

一度は、農村ブルジョアの抵抗の爲にこの貧農委員會は共和國の大部分に於て破壊され消滅させられてしまつた。

かくて地方農村に於ける革命の第二階段は終つた。この結果は土地に關する新らしい出發點となつた。無数の貧家が目に見えてなくなつて行つた。そして大地主の所有の××は農業労働者を富農の搾取から解放した。一度この第一の成果が修められるまでは、サヴェート權力の方向を中農との同盟に労働者と農業労働者（貧農及び中農）との鬭争同盟に向け、反革命に對する勝利を確保した。市街戦期に於けるこの同盟の眞實の基礎は、レーニンに依つて次の如く定義されてゐる。

農民は労働者國家から、土地と大地主及び農村ブルジョアからの保護を受けた。労働者は農民から、大産業の復興を期待する其の前拂としての食料を受取つた。

五 農民は市街戦から如何なる教訓を學んだか？

市街戦は農村に巨大な努力を要請し、農民に窮乏の鐵槌をもたらした。

然しながら彼等の大部分は彼等の自由を確保し、大地主の領地を×ひ返さんとする處の反革命に打勝つ爲には、或犠牲が必要であることをよく理解してゐた。

市街戦の結果を要約して、レーニンはこの時期をサヴェート權力維持の爲め労働者農民の軍事的同盟の時期として、次の如く論じてゐる。

若しもサヴェートロシアに於て労働者と農民の公平な關係が可能だとするならば、それは一九一七年から一九二一年に至る時期に於けるものでなければならぬ。資本家と農業者との反逆は世界の凡ての資本家並びに凡ての小ブルジョア民主主義（諸社會革命黨とメンセヴィキ）によつて支持されてゐた、そしてこれがサヴェート權力の爲の労働者農民の軍事的同盟を必要とし、鞏固にし、明確にしたのである。

市街戦の始めに於て經濟的な困難が大きな不満を發生せしめた時には、サヴェート權力はまだく農民大衆の凡ての要素から支持される處ではなかつたと云ふことを云はねばならぬ。だが間もなく彼等はこれが彼等の利益に最もよく合致する政府であることを理解し初めたのである。

白衛軍に占領された地域に出来上つた色々な政府が、大地主に返上する爲に農民が×つてゐた土地を再び奪還し始めた時、反革命軍が労働者を野蠻な拷問に掛けて苦しめた時、其の時に農民は、サヴェート権力のみが彼等を大地主と資本家の鞭から決定的に解放するのだと云ふことを理解したのである。

コルチャツクとデニキンとがシベリヤと南方とから到着した時、農民は彼等の側にあつた。ボルセヴィキは彼等の氣に入らなかつた、何となればボルセヴィキは價格規定によつて定められた價格で麥を取り上げたからである。然しながら、彼等はシベリヤとウクライナに於けるコルチャツクとデニキンの仕事を見た時、自分達が選擇を過つてゐたことを語つた。或は資本家に従ふか、それは彼等を封建的奴隸に突き落すのだ。或は労働者に付くかそれは鐵則を要求する困難な闘争の中に確められる處の協同を要求する、だがそれが彼等を資本家及び大地主の奴隸から解放するであらうと云ふものなのだ。——レーニン。

市街戦に關するこの本質的な教訓は社會主義サヴェート共和國同盟の農民に、將來への進路を指示

してゐる。

市街戦の闘争の中に鍛えられ、今日も猶、積極的な建設事業の中に鍛えられつゝあるこの労働者農民の同盟は、新社會建設の爲に利害を共にしてゐる之等二階級の密接な協同の形態を取つており、サヴェート國家が立つてゐるその基本的原則となつてゐるのである。

六 サヴェート・ロシヤは如何にして革命の成果を防衛したか？

労働者農民の権力は、敵の優れた軍隊との決戦に於て、世界の最も富める國々の攻撃を受けながら遂に自己の獨立を維持することに成功した。

この事實は、市街戦の過程に造りあげられた赤衛軍の物質的な優越から説明されるべきではなく、むしろ、労働者農民大衆の中に、革命の成果を防衛するのだと云ふ何者も破ることの出来ない一個の意志を自覺せしめた處の、その社會的政治的情勢から説明されねばならぬ。労働者と農民の同盟は赤衛軍の軍列をセメント付にしてゐたのである。レーニンはこゝを幾度となく注意してゐる。

労働者と農民はコルチャツク、デニキン及びその他大地主並びに資本家の軍隊との戦に當つて社會

主義革命の成果を防衛する爲に、非常な勇氣と忍耐を持つて、屢々奇蹟とも云へき程のことを成し遂げた。

赤軍側は、前衛にも後衛にも唯一つに過ぎない。然るに反革命軍は一月毎に國內の凡ての支持を失つて行つたのだ。白軍が占領した地帯に、反革命が地顔を現はして行くにつれて、労働者農民は反革命に反対の立場を取り、黨員の別動隊を形成した、怎うして白軍を弱めて行つたのである。

もう一つの、等閑に出来ない重要な事情は、レーニンに依つて次の數語の中に現はされてゐる。

我々に對抗した一切の反亂を打のめした處の、王手となつた決定的な原因は何であつたが、それは協同だ、我々に取つて最も敵對的な諸國も勿論ふくめて萬國の勤勞者、即ち労働者と農民のこの協同一致だ……………

資本主義諸國は自國の労働大衆の抵抗の爲に、サヴェート權力に對して用意した兵力の全體を送ることが出来なかつたのである。

ロシヤに送られた占領軍が、ロシヤの労働者農民に向つて進軍することを××したといふ話は人のよく知る處である。英國の×士達が一切の積極的な作業に反對してしまつたと云ふ、北方に起つた事件を人々は目撃してゐる。南方では、オデッサに於て佛蘭西艦隊が×旗を翻してゐた。猶その以前、一九一八年にウクライナを占領してゐた獨逸軍隊も、これと同じ理由で召還されねばならなかつた。

第三章 ロシヤ革命に於ける労働者と農民の同盟

一 労働者農民同盟のスローガンは何處から来たか？

労働者農民同盟なるスローガンは、既に一九〇五年の革命の前に、ロシヤ革命の不滅の指導者レーニンに依つて、投げられてゐたのであつた。即ちそれは、革命がツァーリズムに對する始ての重要な強Xをなすべく準備されつゝあつた、その發展の瞬間に投げられてゐたのである。これは、唯にロシヤの農制上の特質や、革命の前夜に地方農村に存在してゐた獨特な情態（資本主義の帝國主義的時代にまで鞏固に残存した封建的遺制）に答へたばかりでなく、又實にロシヤの労働者運動と第二インターナショナルの諸黨派とを區別するその相違に答へたものなのである。第二インターナショナルの時代から、プロレタリアを直接權力に對する闘争に準備した處の黨即ちボルセヴィキ黨が存在したのは、唯ロシヤの労働者運動に於てのみなのであつた。Xはボルセヴィキ黨員に取つては現實的な問題であつたのだ。従つて彼等に取つては又、ツァーリズムに反對する一切の勢力の集中、闘士の糾合といふことが現實の政治的問題であつた。歴史が課した同盟の問題に答へてボルセヴィキは言つた。労働者

階級のヘゲモニーの下に農民階級との同盟だ、と。處がメンセヴィキは、之に反して、ブルジョアジーのヘゲモニーの下にブルジョアジーとの同盟だ、と答へたのである。この、最初の重要な一つの問題に對する二つの答が、ボルセヴィキとメンセヴィキとを區別し、兩者の間に越ゆべからざる境壁を築いた。今日では之が猶、社會民主主義者からX主義者を區別してゐるのである。

二 ロシヤ革命の三段階

レーニン及びボルセヴィキは黨の基本的戰略的標語として、労働者農民同盟のスローガンを發したのであつた。この戰略の闘争目標はプロレタリアに依るXの把握であつた。階級闘争の戰略及びそれに應じたスローガンは、諸階級間の勢力關係のマルクス主義的分析を基礎とすることなしには打建てられ得ないし又適當に表現し得ないのである。従つて又我々が労働者農民同盟なるスローガンの意義を理解し得るのも同様である、即ち階級闘争の經濟的・政治的動きと諸階級間の關係を研究することによつてのみ達し得られるのだ。

ロシヤ革命の最初の時期（一九〇五年——一九一七年二月）に於ては、プロレタリアはその努力をツァーリの絶對主義とその根底たる封建的大地主とに向けてゐた。ツァーリスト・ロシヤのXはX

の第一段階の目的であつたのだ。其の特質は、資本主義の進化の結果と言はんよりは、むしろ反對に資本主義の自由な發達を妨害しつゝあつた封建的遺制たる諸種の壓制的機關に向つたといふことである。この最初の段階は随つて又、ブルジョアジーがその廢止を歴史的事業としてゐた處の經濟的制度に向つてゐるのである。だがロシア・ブルジョアジーは自分に屬したこの使命を果さず、かくてブルジョア革命の完全なる遂行はプロレタリア階級に歸されたのである。

ブルジョア革命完成の一時的遲延(資本主義の帝國主義的時代に於ける)、ブルジョアジーと封建的殘存物として現はれた諸勢力との結合、資本主義の進歩と共に、自己獨特の利害を以て成長しつゝあるプロレタリアの出現、大衆に本質的利益をもたらし、階級闘争を組織する處のボルセヴィキ黨の結成、かゝるものが革命の第一段階が終つて後、その第二段階を宿命的に決定した處の諸要因である。

この革命の第二段階(一九一七年二月より十月まで)はブルジョアジー××の爲め、プロレタリアートの權力の爲の闘争を目的としてゐた。その特質はこの時期が平和に對する渴望が小ブルジョア大衆を夢中にした處の戦争時代に當面してゐたといふことである。戦争の終息を特長とするプロレタリア革命のこの局面に於て、階級闘争内の小ブルジョア大衆(都會及び田舎の)をブルジョアジーから切離すことに成功したのは、この事實のお蔭である。

革命の第三段階はプロレタリアートによる×力の×取である。その目的は權力の維持の爲と社會主義建設の爲の闘争である。その特質は、プロレタリア國家が全世界の資本主義國の面前で唯一人その初舞臺に立ち、農業を特長とした國內に、特に地方的な國民と、比較的肥弱な工業とを持つて、社會主義の建築を計畫せねばならぬといふことである。

階級闘争の怎うした色々な段階に於て、労働者と農民の相互的關係も自ら變化する。その原因は唯にプロレタリアートの地位の變化にあるばかりでなく、又農民を階級闘争の流の中に押出す處の彼等自身の行動の中にあるのである。

政權を×取するまでにプロレタリアートの境遇や其の目的物に變化の起ることは既に我々の述べた處である。が、プロレタリアートと農民の相互的關係をよりよく理解する爲には、農民が革命の様々な時期に通過した處の道を、今度は吾々も彼等と共に歩いて見ることが必要であらう。

三 ロシヤ革命の農民政策

資本主義國家の社會組織にあつては、農民は狭い意味で言ふ所謂階級を成してゐない。彼等は反對に封建的社會の時代に一階級を形成してゐるのである。この階級は、封建社會の他の諸階級と同様に

資本主義の進化によつて崩壊させられたのである。そしてそのいろいろ異つた部分が、資本主義のいろいろ異つた階級に結び付いたのである。資本主義の發達は農民を農村ブルジョア（富農）と農村プロレタリアとに分割する。然しながら其處には長い呼吸の一過程があるので、そして其の長い呼吸の間中、プロレタリアートとブルジョアジーとの兩極端が農村セミ・プロレタリアとか農村小ブルジョアとか云ふ様々な中間層を通じて貧農及び中農に結び付いてゐるのである。資本主義の進化が古い社會を完全に溶解してしまはないう限り、多少共重要な殘存物が残つてゐる限り、この殘存物が、進歩しつゝある資本主義の活動の爲に分化の過程を辿つてゐる農民階級が種々層の間に連鎖の役を務めるのである。

更に、革命の見地から見れば、封建的殘存物の廢止はブルジョア革命完成の目標となり、この局面に於て、農民が、全體としての自己の中に一個の××の勢力を自覺せざるを得ないといふ状態が起つて来る。かゝるブルジョア革命の成就是プロレタリア階級に屬してゐるのだ。だが、農民は、革命がこの目的を達成し終了してはないう限り、彼等全體として、労働者階級の同盟軍である。それ故に革命の第一段階（例へば一九〇五年より一九一七年二月までの）に於ては、労働者農民の同盟なるスロ―ガンが農民階級が全體との同盟を意味するのである。ボルセヴィキ黨はこの時代に労働者農民の同

盟なるスロ―ガンを次の様な様式で表現した、即ち『ツァーリズムに反對する全農民階級と提携せよ―ブルジョア民主主義革命の爲にブルジョアジーを××せよ―』と。ブルジョア民主主義革命の様式は『プロレタリア農民の民主主義的獨×』之だ。

封建的遺制を廢止して、革命の第一局面が終結すると共に、資本主義の影響で農民が多くの層に分裂してゐたにも拘はらず、其の全體が猶結んでゐた處の此の同盟が解かれた。社會闘争の次の時代に於ては、これらの各層がその社會的特質から必要に応じて自分の所屬する階級に合流して行つた。かゝる階級とは、富農に取つてはブルジョアジーであり、貧農に取つてはプロレタリアートである。處が此の兩者の間に中農といふ一群があるのだ。之はその社會的性質から、ブルジョアジーの側に立つこともプロレタリアートの側に立つことも敢て必要としない。が、その數が多いといふ點から、闘争の結果を左右する種々の政治的影響を持つてゐるのである。

この同じ時代に、プロレタリアートと利害を反對にする處の農民の黨を見ることがある。そしてこれは他の地方住民の黨、即ち農村プロレタリアを包括した農村ブルジョアジーの黨とさへ衝突し始める。かくて市街×の砲×が地方農村に輝くとき、その闘争の結果は中農の取つた態度如何に懸つてゐるのである。

そこで提出された問題は怎うだ。此の段階に於ては、労働者農民の同盟なるスローガンは猶存続する可きか、それとも革命の發展に依つて、歴史の記録の中に除け去らる可きか？ 社會的諸勢力の分拆は、革命のかゝる時期には、革命的戦線が後退し、反革命的戦線が擴大することを示す。富農の群は革命の戦線を捨て去り、ブルジョアの陣營に馳せ參する。彼等は前局面に於ては、中立化されてゐたが乃至は中立化される可きものであつたが、今やプロレタリア革命によつて反革命の中に投げ返されてゐるのだ。然しながら、はつきり言へば、かゝる時代に、プロレタリアートは決して農村同盟軍を捨て得ない。これはプロレタリアートに取つては、客觀的に××的な役目を果たし得る處の一切の勢力を、決闘の瞬間に自分の側に獲得するか否かの決定的な問題だ。が又同時に、それらの勢力と、それらの客觀的性質が反革命の陣營に押し込まれたり、或は躊躇逡巡せしめたりしてゐる處のそれらの場所との間には、明確な限界を打建てることゝ重要なことである。此の見地から農村ブルジョアジーは、明白な敵として、前以て労働者農民の同盟から除外されてゐた。中農はブルジョア的の中間層として必ずしも敵ではなかつた。だが、此の時期に於ては最早同盟し得ないのだつた。その社會的性質が當時許し得る處の、そしてともかく適當な政策で制御し得る處の最大限は、中農の中立といふことであつた。従つて必要缺く可からざる唯一の同盟軍は貧農だつたのである。

怎うした情勢にボルセヴィキ黨のスローガンは答へる、プロレタリアートは社會主義××を實現する爲めに、自分の周りに、セミ・プロレタリア領域の國民大衆を糾合して、ブルジョアジーの抵抗を××し、農民と小ブルジョアの躊躇を克服しなければならぬ、と。従つて労働者農民の同盟のスローガンは、革命の第二段階即ち社會主義××の準備期に存続する。その意圖は専ら貧農の中かけられる。そしてそれは中農中立化のスローガンと切離し得ないものとなる。ボルセヴィキ黨はこのスローガンを次の様に具體化してゐる。

××がブルジョア革命、ブルジョア民主主義革命である限り、先づ専制××と封建的遺制とに反對する農民全體と。次に、資本主義に反對し、富農、農村ブルジョアジー並に高利貸に反對する貧農と、セミ・プロレタリアと、一切の諸搾取者と。その時に革命はプロレタリア××となる。(レーニン)

革命の此の時期に於ける政府の形態は労働者と貧農との獨×である。此の獨×は始めボルセヴィキと社會革命黨左翼の政府に依つて實行された(形式文は、といふのはボルセヴィキが多數を制してゐたのだから。で實際にはプロレタリアートの獨×を見たのである)。社會革命黨との破綻後、労働者農

民の同盟は『貧農委員會』の中に自己の物質的表現を見出した。

プロレタリア××の勝利は、農民と勝利を得たプロレタリアートの相互関係を此の新しい根底の上に移したのである。此の變更は富農(クラーク)と貧農との兩極者に對するプロレタリアートの態度を根本的には少しも變へるものではない。それは反對に中農に對する關係を根本的に變化したのである。富農に對しては、プロレタリアートは例へその手段は別なものに變らうとも、常に階級闘争を續けて來たし、又續けてゐる。(その新しい手段には、暴力的な強制の代りにサヴェート國家の經濟的行政的制度が當てられてゐる。)同盟の根本は常に貧農にある。中農は、之を中立せしめることに限定せず、彼等を獲得して労働者農民の同盟の中に引込むことを學ばねばならぬ。此の政策は社會主義建設の爲めに、農村人口の壓倒的多數を制する中農の重要さから必要なのである。こゝでは此の層を反革命軍の戦線から決定的に分離することが必要だ。こゝに達する状態は既に形成されてゐる。即ち、プロレタリア権力の安定は中農の變遷を餘儀なくし、プロレタリアとその國家に對する信頼を増大せしめたのだ。他方、政治的權力を所有した處のプロレタリアートは、此の層を自分達の階級に確りと結合する自然な政策を實行する能力を持つてゐたのだ。××が勝利した後のボルセヴィキ黨のスローガンは『貧農の支持を得よ、中農と密接に結べ、社會主義建設の爲めに前進せよ!』といふのであつた、此

のスローガンの實際的な意味は、プロレタリアの掌中に工業を、農民の掌中に農業經濟を、しつかりと握れといふことだ、工業にも農業經濟にも最も有利な發達の可能を同時に保證し得る様に。こゝに達する爲めの手段は、原則的に、そして先づ何よりも、社會主義的經濟政策だ。此の方法は、農民の創造的獨自性を自覺めしめることによつて、又農民を、プロレタリアートの完全なヘゲモニーと指導の下に、社會主義的建設等の仕事に誘ひ入れることによつて、成立つのである。かうなれば、農民はプロレタリアートの經濟政策の單なる對稱物ではない。彼等も亦能動的な一主體とならざるを得ないのだ。換言すれば、如何なるものと雖も、彼等の參與なしには、彼等の意志を決定することはないのである。

怎うした労働者農民同盟が結ばれてゐる地方の活動力といふものは重にサヴェートの事業の中に現はれる、サヴェートの外に於ても、亦、農民は、全國土に擴つてゐる無数の經濟的文化的施設の中に自分達の獨創的な精力をいつでも振り得るのである。其の最も重要なものとして、我々は協同組合を指摘する。怎うした施設を用ひて農民は唯に社會主義の建設に貢獻した丈ではない。この協同組合のいろ／＼な形態によつて、個人的經營は除々に又不斷に、集中的な性質を帶び、社會主義的經濟の方向に組織的に進化する。かくの如き過程は、權力がプロレタリアートに屬してゐる處、××が×器に

依つて××取られ、××によつて防衛された處によりてのみ、自然に可能なのである。

三六

三 何人がレーニンの道に居るか？

以上述べ來つた處から明確に次のことが出て來る、

- 一、××の全段階を通じて労働者農民の同盟はボルセヴィキ政策の中軸であること、
- 二、労働者農民同盟のスローガンは動的な意味に理解されねばならぬこと、其の内容は變化し、常に階級闘争の具體的な情勢によつて決定されること、

この政策、労働者農民同盟なるこのスローガンは、この意味に於てマルクス主義の果實であり、謂はゞボルセヴィキ個有のものである。それは多くの革命的な大衆の中にあるプロレタリアートと農民の相互的關係の正確な定義から生れたものである。こゝから、ボルセヴィキの見解と他の凡ての黨派メンセヴィキや社會革命黨等の見解との間に嚴として存在する對立が出て來るのだ。

メンセヴィキの大きな缺點は、農民階級が既に完全に農村ブルジョアジーと農村プロレタリアートの兩極に分裂したといふ理論的誤謬の上に、其の見解の基礎を据えたといふことにある。メンセヴィキの理論は貧農中農といふ中間層、即ち農村人口の大多數に付て無智なのだ。従つて又、それは彼等

をばこの兩極の何れかに編入せざるを得ないのだ。かゝる誤謬は結局、ある時は農民全體を敵に廻したり、又ある時は主義も方針もない掛引で彼等を引込うとしたりする陰謀になつて了うのだ。

社會革命黨の根本的誤謬に、之とは反對に、農民階級の内部に生ずる變遷の過程を見ずして、この階級を資本主義の法則に従はない同質の一階級と見做す處にある。

この理論的誤謬は、ブルジョア革命が成就し、封建的遺制が完全に撤廢された後、一般的な壓制關係が破壊され農民階級の新しい變化が開始されたとなるや、忽ち、彼等社會革命黨其のもの及び其の主張を必然的に破産に導く。

労働者階級と農民との關係の問題は、××黨の内部に於てさへも、絶えず、レーニン主義とそれから遠ざかつてゐる一切の傾向又はグループとの間に、境界の一線を劃してゐたのである。社會主義サヴェート共和國同盟の××黨内に於ける一切の反對派の特質は、今日まで常に、勞農兩階級間の關係に付ての誤つた概念にあつたのだ。この事實は殊にトロツキーに依つて代表された傾向に特長的である。そして又それ故に重要な缺點は皆、このプロレタリアートの農民に對する政策に付ての誤つた考の中から出て來るのである。かゝる考は實際にレーニンの理論に正反對のものであり、労働者農民の同盟とは兩立し得ないものである。之に劣らず特長的なものは、反對派は中農を全く無視し、之等農

三七

村住民の活動的勢力の協同を、社會主義建設の上に何等代表させ得ないといふ事實だ。反對派はプロレタリアートのイデオロギーの下に農民の獨創性の自覺を唱へる代りに、歴史が既に通り過ぎた處の獨裁方法の再演を吹聴するのだ。

かゝる方法は遅かれ早かれ必ずサヴェート権力の流失を導くだらう、何となればそれは勞農同盟を破壊するものだから。

第四章 サヴェート農村の社會的及び經濟的進化

一 何が基本的問題か？

サヴェート権力の十年間はロシアの農業に工業に於けると同じく、巨大な進歩を示さしめた。兩者は、唯に戦前の生産額に達したのみならず、多くの方面に於て明かにそれを凌駕した。だが根本的な問題は怎うだ、如何なる方面にかゝる進歩が成就されたのか？ サヴェート經濟を前進せしめる處の社會的勢力とは何か？ サヴェート同盟内に、不斷に鞏固になり擴大して行くものは、資本主義的要素か、それ共又社會主義的要素か？ こゝにサヴェート同盟の如き國家に取つての根本的な決定的な問題があるのだ。レーニンは既に數年以前に於てこの問題を完全な明白さで提起してゐる。彼は言ふ、全問題は農民階級がそれに依つて進む處の知識、彼等を導く處の知識に存してゐるのだ、と。若し最初に組織に着手するものが資本主義であるならば、それはサヴェートを放逐するであらう……：少くもプロレタリア國家が農民の支持を得て資本主義の紳士共を制肘する處の力を見せてやらない限り。

我々が小農の生産力を發展せしめて、彼等を組織し、プロレタリアの力を以て其の發達を期することを學ぶか、さもなければこの同じ小農を従へるのが彼等資本家となるであらう、見よ、之が闘争の結果を決するものなのだ。

かくの如くしてレーニン自らこの問題を解明してゐるのである。この問題に對する答は十月革命の運命に關する重だつた一重要事項だ。それはサヴェート農民の社會的地位と其の發展の見透しの正確な意識的な研究によつてのみ期し得られるのである。かくて何よりも先に、プロレタリア獨^レ治^下にある農村に於ては、諸階級の關係が何うなつたかを研究しなければならぬ。

十月革命の結果として地方農村に起つた經濟的社會的變化は、次の數字によつて明かだ。この數字は農村住民の様々な社會層の間に於ける土地の割當が前後に何う變化したかを示したものである。

十月革命の以前には、(シベリヤ、北コーカサスを除いた)現在のロシア社會主義サヴェート共和國同盟の領地に於ては土地は種々な農民軍の間に次の様に分割されてゐた。

貧農及び中農……………六〇百萬ヘクタール
クラーク(富農)……………四〇百萬ヘクタール

處が今日ではその同じ領土に於て慙うだ、

貧農中農……………一三六百萬ヘクタール
クラーク……………四百萬ヘクタール

かくの如く十月革命のおかげで貧農中農は、彼等の土地の二倍以上を持ち之に反してクラークの所有は約十分の一に減少したのだ。サヴェート共和國同盟の全土に付ては貧農中農は全體として一一〇百萬ヘクタール以上を受取つた(その内大領地から五〇百萬・クラークから五〇百萬・官公地から一〇百萬××)この巨大地主の所有權××と、先にはクラークの手中にあり、今では貧農及び中農の手に移された處の土地の新たな分割とはロシアの地方農村の社會的形態を完全に變形したのである。サヴェート同盟の地方住民は今や次の如き構成にある。

	一九二五年	一九二六年	一九二七年
中農	六四・七%	六五・八%	六六・四%
貧農	二四%	二一・六%	二〇・四%

右の數字は尙二つの點に付て注意さるべきものである。

四二

第一、之等の數字は農業上の革命及び土地の國民化が地方人口の均一を造り出し、中農層を他の諸層が非常な勢で減少して行くにも拘はらず、巨大な比率で増大せしめてゐることを物語つてゐる。

第二、以上の數字はプロレタリア獨々に庇護され、中間層の不變的な増大とそれに相應した貧困層の減少とを來たしてゐる處の、この社會の發展する方向を、即ち資本主義國に起つてゐるものとは正反對な甚だ注目すべき現象を示してゐる。それは中農がサヴェート農村の中心的形態となつてゐることを物語つてゐるのである。

二 資本主義國內に胎生する處の社會的變移とは何か？

資本主義國家に於ては、地方住民に見られる處のものは之と反對な過程である。資本主義國家の工業は其の發達の爲には國家市場の建設を必要とし、それは中農大衆の破滅を意味する、即ち彼等は絶えず没落しプロレタリア化して行くのだ。プロレタリアイト××治下に於ては、國內市場はその擴大發展の爲に中農の貧困化もプロレタリア化も必要としない。それとは全く反對に、それは中農貧農の財産が擴充する様な關係に於てのみ發達することが出來るのである。之が農民大衆の中に發生した處

の、そして前節の數字に依つて解明された處のかの一目瞭然たる社會組織群をば説明するものなのだ。

三 クラークの現状は何うなつてゐるか？

若しも我々がクラークとして賃銀労働者を備ひ同時に土地の賃借をする處の農業經營を考へるとすれば、我々はサヴェート同盟内三・七%の開墾地を持つてゐるのである。

多くの地方に於ては、この比率はもつと高くなつてゐる。例へば北コーカサスでは、六%に達してゐる。一九二三年には唯の三%であつたといふことを注意すべきである。即ちこの四年の間に二倍に増大したのだ。猶東北地方では僅か二・五%のクラークを數へるに過ぎない。ガシペリア南部では六・三%に達してゐる。

假に之等の數字を割引して考へても、それは猶クラークの數の増大を、従つて地方産業に於ける資本主義的要素の一定の進歩を示してゐるのだ。

四 何處に資本主義的要素はあるのか？

四三

社會主義サヴェート共和國同盟の地方産業に最近數年間に眞實の飛躍が行はれたことは既に前節に示した通りであるが、この發展は小商品生産業者の生産力の増大を前提とする。これは必然的に資本主義的要素の増大を生ぜしめるものだ。サヴェート權力はずつと前から、この現象から必要な結果を引出してゐる。貧農及び中農の開墾を以て生産力を増大せんとする之等の努力は、同時に、富を渴望するクラークに備へる爲のあらゆる手段を合せ用ひてこそ、資本主義的要素の發展を阻止し、それを必要な一定の限界に制肘することが出来るのである。

五 資本主義的要素を防止する爲に如何なる手段が取られたか？

何よりも先づ地方に於けるサヴェート政治の階級的性質を示すことが必要だ。今日農民に課せられてゐる税金は、平均、ツァーリズムの時よりも三倍も軽いのである。若しも種々雑多な社會層を考慮に入れて見るならば人はそこに疑ひのない階級政治を確めざるを得ないであらう。

その最も生々した現れは、最も貧しい家族の5%は税金を全免されてゐるといふ事實に見られる。他の家族に關しては、そのグループの異なるに従つて大きな差がある。収入税の比率は其の財産によつて3%から一八%まで變化する。この累進的段階は近く一層引上げられるであらう、クラークに取

つては國税が猶一層加重するであらうにも拘はらず。

資本主義的要素の進展を制肘せんとする他の手段は、土地の賃貸借に對しての束縛である。其の田畑を自ら組織的に耕すことをしないで、賃貸する農民は、凡て三年乃至六年の一期を過ぎれば、その私有权を奪はれてしまふ、この場合にはそれは共有財産になるのである。

以上が地方經濟に於ける資本主義の進展を制肘せんとする重なる手段である。若しこれに、法律によつて選舉權被選舉權を奪はれたクラークの政治的地位を合せて考へて見るならば、サヴェートの地方農村には、資本主義の恐るべき發達を少しでも促す様な土地は絶対にないことを、容易に理解し得るだらう。然しながら同時に又かゝる手段が資本主義を廢止する最適のものか何うかは猶問題とする必要がある。

この問題には消極的に答へねばならぬ。若しもサヴェート權力がこの制限政策を精力的に實行するならば、それは姑息的政策になつて了ふ。この階級的政策は不可避的なものだ、それは勤勞大衆の大多數の利益に役立つ。然しながらそれは資本主義を發達せしめる状態が存続する限り資本主義を根本的に廢止し得ないのである。問題は常に、都市に於けると同じく地方農村に於ても一切の資本主義的要素を完全に整理する手段を發見することにあるのだ。

六 この問題は如何にして解決し得られるか？

その根本に遡れば社會主義建設の問題と何ら變らないこの問題は、個人的な小農法から大協同經濟への推移、即ち協同主義に依ることなくしては解決し得ない。サヴェート權力に負はされた此の事實は、其の變移を、農民大衆に最も有利な状態で遂行し得るために、必要な手段を取ることに存してゐる。

七 何故協同主義は農民の財産を増大する處の唯一の手段なのか？

この疑問は、現状に於て經濟的に最強者であるクラークがその自由な立場から得てゐる優越を、貧農や中農を經濟的に壓迫する爲に利用してゐるといふことを考へて見るならば、容易に氷解するであらう。現段階に於ては貧農及び中農は協同主義の基礎の上以外には、その經濟を改善し得ないのである。怎うした譯で、協同主義は勤勞的農民の大多數者の最も根本的な利益に應じてゐるのである。

八 其の根據として如何なる事實があるか？

既に幾度となく示した様に社會主義サヴェート共和國同盟の農産物は戦前の水準に達したし、凌駕しました。例へば播種面の數字は次の如くだ。

一九一七年	七九・八〇〇・〇〇〇デシヤチン
一九二一年	六六・八〇〇・〇〇〇——
一九二五年	七九・四〇〇・〇〇〇——
一九二六年	一〇二・〇〇〇・〇〇〇——

だがこゝに注意しなければならないことは、サヴェート同盟の地方經濟は二千四百萬からの個人的小農法から成つてゐて、それらは自分自身ではその生産や經濟を改善すべき何らの可能性を持つてゐないといふことだ。かくて之等の經營者の三分の一即ち八百萬の最も貧困な家では、一頭の馬を飼つては利益にならないといふことが解るのだ。更により強い理由で、このことが農業上の機械に就て眞理なのである。ある改良鋤でさへも農家のある方面に於ては、その購入が金利的に引合はぬが故に使用し得ない。このことは打穀機や其の他の改良農具に就ても同じ様に言ひ得る。かくてサヴェート同盟

には五百萬以上の木製の鋤が残つてゐるのである。この數字は、近年の経過に見ると白露に於ては近代的な鋤の數よりも遙に急速に増加さへしてゐるのである。其處でクラークや富農が優れた生産手段を自分の經濟の中に取り入れて利益をあげてゐる、かゝるものは貧農中農の層に取つて却つて不利益となつてしまふのだ。怎ういふ状態ではクラークの穀物の收穫、牛乳の生産等々が中農貧農のそれよりも唯に絶對數に於てのみならず相對關係に於ても同じ様に遙に多くなるのは當然のことである。この結果は、後者の進歩は益々非常にノロイものとなりその境遇の改善も非常にオソイといふことになる。そして彼等自らこの事情に通じ始める。そこで彼等は自分から、協同主義が自分達の耕作に急速な飛躍を保證し、遂にはクラークを征服せしめるだらうといふ考へに到達するのだ。農民通信編輯局に達する多くの手紙が扱つてゐる主題は之である。この傾向に取つては唯サヴェート政府によつて奨勵されること、そして適當な方面に導かれること丈が必要だ。

九 協同主義の途に既に如何なる成功が得られたか？

農業經濟の協同主義への途上に既に修められた成功をこゝに適記して見やう。だが先づ何を置いても、この方向に向つて今日までに成遂けられた、凡てのものはサヴェート權力の指導下に發達した協

同組合に負ふものであることを注意せねばならぬ。既に一九二三年にレーニンは協同組合に就ての天才的な計畫を展開し、サヴェート同盟全國民の協同組合への大衆的加盟なるスローガンを投じたのであつた。この時からサヴェート同盟の協同組合運動は驚くべき進歩をして注目を惹いた。特に農業協同組合の多くの支部に於て都市勞働者と農村生活者の間に完全な友愛關係が結ばれたのである。

この成功は何にあるのか？

先づ最初に、其の契約組織即ち、社會的工業のある部門とそれに關聯した農村經濟の領分との間の契約締結に留意せねばならぬ。こゝに數例をあげて見よう。

一、製糖トラストと協同組織を持つた砂糖大根の栽培業者とがある一定量の原料引渡しの爲に契約を締結した。従つて製糖會社は、農民に栽培上の質的量的改善の爲の援助を與へることに利益を持つ製糖トラストは砂糖大根の栽培業者に精選された種子、肥料及び近代の耕作機械等を供給し、又農學士の助言を保證する、等々。複雑な耕作機械やその他無數の利益の享受は決定的に影響して、農民を土地の協同耕作や協同取入れに押込むのである、等々。

現在製糖トラストはこの種の契約を約九〇萬の農家と締結してゐる、換言すれば、殆ど凡ての砂糖大根栽培業者が協同組合に組織され、その生産が直接に、そして最も有利な條件で社會的工業に達する

のである。

二、羊毛産業に於ても同様で、こゝでは七五萬の農家が類似の方法で組織されてゐる、即ち生産者の九五%がその生産を直接に羊毛委員會に引渡してゐるのである。

三、類似の關係が亞麻産業とその栽培者との間にある。ここには協同組合に入つてゐる農家との契約數が一五萬ある。

以上三つの部門に於て丈でも二百萬の農家はその經營の協同化への途に上り、彼等自らの經驗を以て協同生産と生産物の協同販賣とが最も有利であり又最も便利であることを認めてゐるのである。

次はいよいよ、協同經營、協同耕作、カルテル、協同組合耕作等の番だ。この種の經營では、かつて二五萬ヘクタールを耕してゐる人が既に百萬も算へられてゐる。中農の大部分がこの經營に這入り、然も次第にその數を増してゐるといふことは注意すべきことである。

次には、土地改善、耕作機械購入並びにその使用の爲の同盟を擧げねばならぬ。それは既に百萬の農家を糾合し、その數はこゝ數ヶ年の間に數倍に増えてゐるといふことである。

農産物の加工に關するものに於ても、矢張侮るべからざる進歩を紹介し得る。恁うして農業協同組合は一萬六千種の産業を包含し、その内六千はバターとチーズの小工場で約百萬戸の生産を取扱つてゐる。

る。

こゝに見られる事實こそ個人的小經營が協同的一大集産經濟へ變更して行くことを示す處の最も重大なものである。

一〇 既得の成功は何を意味するか？

之等の成功はプロレタリアート獨下にある、ロシヤ農村の社會的經濟的建設上眞實の革命であると言ひ得る。それはまさに私的な小經營の消滅、一大集中經濟に依る置き換へを意味するのだ。それは農村經濟における資本主義的要素の漸時的消滅の方向に見られる進歩を物語るものだ。それはサヴェート農業に社會主義的要素が不斷に増大することを證據立てゝゐるのだ。

こゝに重要な注意を促さねばならぬ。この協同組合に於ても亦非常な發達を遂げてゐるのだ。そこにも矢張産業家と農民の間に契約が締結されてゐるのだ。従つて、人はよくサヴェート同盟だといふと全く新奇な形式を想像したがるものだが、問題は、そんな形式にあるのではなくて、その内容が新しいといふことにあるのだ。ブルジョア國家の協同組合が資本家の富むことに役立つにも拘はらず、勞働者農民の國に於てはそれが社會主義的要素の進歩に役立つのだ。こゝに本質的なものがあるので

ある。

十一 何故さうなのか？

サヴェート同盟では、都市と地方農村の間の経済的關係が金融資本にも、個人的資本家に属する大工業にも、支配されないで、プロレタリア××國家の計畫に支配されてゐるからである。この××が全ロシアの經濟を一の全體として考慮し、其の發達を、都市及び地方の勤勞大衆の利益になる様に制御する。即ちこれが資本的要素を告訴し、其の一定の後退を命ずる處のものなのだ。

數字を用ひて證明するのが簡單だ。それは個人的資本の消滅を、又同時に國家的工業と協同的産業の鞏化を示すものである。

ロシア全體の産業中個人資本の部分は次の様に變つてゐる。」

一九二三年	二五・〇%
一九二四年——二五年	二一・八%
一九二五——二六年	一八・八%

同様に都市と農村の間の通商全體の内、個人資本による部分が年々没落しつゝあることが確なのだ。今後之等商業の大部分が協同組合と國家の諸組織の掌中に收められるであらう。

更に注意すべきは、その地位が、サヴェート同盟に於けると、資本家國家に於けるとでは根本的に違ふと云ふことだ。資本家國家にあつては都市及び農村の勤勞大衆を次第に強烈に搾取し、壓迫して資本を僅か數人の手に不斷に集積して了ふ處のこの協同組合の形式が、反對に、プロレタリアート××の下では、地方住民の最大利益の爲に社會主義的産業を及び農村經濟の不斷の鞏化を許し、かくて社會主義の途への彼等の將來の進歩が約束されるのだ。

十二 將來の進化の形式は如何なるものか？

既に述べた農業協同化の多くの形態は今やその力を證明し、農民の中に次第に大きな人氣を得るに至つた。そこで、新形式を想像すること等は問題外だが、既に存在する形態を出来る丈完成さすこと獎勵することが問題だ、個人的小農法から、最高技術で出来る丈洗練された協同經濟への漸進的變遷によつてこそサヴェート農民の社會主義への進化が成就されるのだ。

十三 如何なる方法を用ふべきか？

先づ初めにサヴェート政府は、一切の強制、一切の暴力を絶対に禁止する旨を最も明白な方法で命令してゐる。人々は農業経済の協同化を宣傳しなければならぬ。又必要となれば、勧誘さへもしなければならぬ。説得と奨励とが唯一の許された方法なのだ。一大教育事業が完成されねばならぬ。それはロシア農村の猶未だ甚だ低劣な文化水準では困難な状態にある。地方男子の四三%が猶目に一丁字がないといふことを不幸にも認めねばならないのだ。女子に至つては、この比率は六六%にさへ達してゐる。

従つてサヴェート政府は何を置いてもこの問題を解決すべく専念してゐるのだ。

十四 如何にして農民の文化水準を引上げるか？

多くの手段が最近この方面に取られてゐる。特に人々は地方学校の建設に注意を向けてゐる。次第に義務教育に導かうと云ふ計畫なのだ。労働者階級も亦、農民に可能な最も容易な協同化を計るために、必要な援助を組織しようとしてゐる。労働組合がこの事業に力を注ぎ様々な方法を、畫してゐる。

例へば其の組合員を地方の教育事業の爲に派遣する等である。

古い制度の特別にいまわしい傳統を受繼いでゐるロシア農民の文化水準を引上げるといふことは一大事業だ。それは限らない、根強い、長い活動を要求するのである。

だがある一項目は今日既に完成してゐる。即ちサヴェート農村はその發展の新段階に這入つてゐるといふことだ、これが都市と農村の鬭争の廢止に導くものだ。

農村経済の協同化がこの廢止の位置を用意する。この大問題の解決は、結局に於て、労働者と農民との間には最早何らの相違もあり得ないと言ふ處まで導くことだらう、凡ては同じ社會主義社會の成員となるであらう。

第五章 サヴェエート農村の政治生活

一 サヴェエート體系の特質とは何か

サヴェエート國家は、上から下まで一切の支配權の選舉主義に立脚してゐる。

農村選舉民の一般的集會で選出される村サヴェエートから始まつて、他の凡ての權力を同じ様に、それに應じた地區のサヴェエート集會で選出される郡又は區の執行委員會を通り、政府の全權たる中央執行委員會に至るまで、凡て人民代表に依つて指揮されてゐる。

社會主義サヴェエート共和國同盟の政治生活の組織的根本原則は、國家行政への労働大衆の最も廣範な参加といふことである。

その選舉の改選の頻繁なことは（地方組織では年一回、中央權力では二年に一回）大衆の指導統制を新鮮なものとすることを保證する。それが爲、權力機關が労働大衆から浮離れる様なことがないのである。

サヴェエート權力の性質は、全權力、全政府機關の獨特な根底が、不斷に、曾ては資本主義に禁壓されてゐた階級組織であるといふことにある。

大衆は、法律上一切の權利を與へられてゐる處の最も民主的なブルジョア共和國でさへも、實際には無數の手續とか掛引とかいふものゝ爲に、民主的な權利からも自由からも、亦政治生活からも切離されてゐるものである。今日國家の民主的行政に規則的に決定權を持つて參與してゐると呼ばれてゐるのが、即ちかゝる大衆である。

サヴェエートの代議員は國家の細胞的根底であり、地方問題の決議内での廣い自治權を有してゐる。そして團體の原則に従つて活動し、政府的形態として労働者の利益を完全に代表し、大衆の國家組織への参加を保證する。

他のいろ／＼な權力組織を先づ差置いて、サヴェエート同盟の村サヴェエート文を取つて見よう。その代議員は九六萬人を數へる。恚うしてこゝに、地方問題の實際的な事件に參與する爲に、サヴェエート組織によつて大衆に附與されてゐる擴大な可能性が提示されてゐるのだ。

二 如何にして農民はサヴェート國家の行政に參與するか？

農村の住民は此の國の一切の政治生活に積極的な役割を持つてゐて、凡ての權力機關を選出する。サヴェート國家の基礎は労働者農民の同盟であつて、之が、人による人の壓迫も、人による人の搾取もない處の新社會を、共同して建設してゐるのだ。

此の同盟はサヴェートによつて實現されてゐるが、そのサヴェートは、その頭部に、サヴェート中央執行委員會によつて選出された労働者農民の政府を持つてゐる。そして、此の執行委員會は又それ自身全サヴェート同盟の代議員會議によつて選出されてゐるのだ。

サヴェートは、十月革命の最初から労働者と農民とが結んで來た此の同盟を、政治生活のあらゆる領域に、實際に實現してゐる。

此の同盟は、更に又國家指導機關の構成法の中にも反映されてゐる。

農民は村サヴェートに彼等の代議員を選出する。すると、此のサヴェートの代議員達は、郡又は、區の集會で合同して、そこで郡又は區執行委員會を選出する。これがその管轄の政府權力を代表するのである。

他方、都市の労働者と勤勞的住民とは都市サヴェートに自分達の代表を選出する。このサヴェートが區や縣や州の大會にその代表を送る。かうして郡や區のサヴェート代表者大會で労働者と農民が結合し、こゝで州の權力機關を選出する。

同様に、凡ての都市、凡ての農村のサヴェートが中央的集會で結合し、こゝにサヴェート同盟の労働者農民の政府が形成されるのである。

こゝに、農民が權力組織へ如何に参加してゐるか、その状態を示す統計がある。

一九二七年の村サヴェート五四、九七一に就いての統計によると、その代議員の内八九・一％は農民で四・三％が農業労働者、五・五％が地方インテリゲンチヤである。

即ち村サヴェートの代表者の九四・五％は農民なのだ。

郡又は區執行委員會の内、六七・三％が農民であり、此の執行委員會代表の内には六一・一％を占めてゐることが確かめられてゐる。

社會主義サヴェート共和國同盟の中央執行委員會の成員及其の補缺の内、三一・三％は農民だ。若し之に農業労働者を加へるならば、同盟の最高權力機關の四分の一は農民によつて構成されるのを見るだらう。

完全に百姓のものである例の村の権力機関に就いては言はないとして、地方的の、又は中央のサヴェエト機関に就いて見ても何處の資本主義國よりも遙かに廣く農民が代表されてゐるのである。従つてサヴェエト・システムは、大衆が上から下までの凡ての権力機関に参畫する様な大衆の政治機関となつてゐるのだ。

だから、『仕事臺から来る』労働者と『鋤から来る』農民とが、地方権力の内に、又勿論中央権力の内に、人民委員(大臣)の中に、高い比率を占めるのだ。そして非常に多數の農民が、國務の指揮監督に當る爲めに送られる處となつてゐるのである。

三 村サヴェエトの選挙は如何にして行はれるか？

村サヴェエトは單に村の地方権力丈の機関ではない。或爲政家が宣言した様に『村にあるサヴェエトは農民大衆の主要な組織であり、その政治的重要性からは眞に獨特な一機関である。その組織全體によつて農村に於ける労働大衆とプロレタリアートを結合するのが即ち之なのである』

こゝに、サヴェエト選挙の驚く可き政治的重要性と、サヴェエト共和国の生活に於てサヴェエトに課せられた處の役割とがあるのだ。サヴェエトの選挙は毎年行はれる。いつも廣大な田舎から先に行は

れるが、その時はサヴェエトはそこへ出かけて行つて、その取扱に就いて選挙民に報告をする。譬へ此の種の報告がその一年の間に何うなつて了はうとも、選挙の前夜に於ては、これがそのサヴェエトの最大限の仕事として、住民の批判的試験に提出されるのである。

選挙の場合には、労働者達は、主要な政治的經濟問題を、又同様に、その地方への自分達の現實的な影響を検査する。彼等は自分達の代議員に、次の期間に取る可き手段に就いての明瞭な委任を與へる。

村サヴェエトの選挙への大衆の参加は、次ぎの様な最近五年間の統計で分る様に、絶えず生長してゐる。

R. S. F. S. R. (ロシア社會主義サヴェエト共和國同盟)の村サヴェエトの選挙統計によれば、一九二二年には投票者二二・三%、一九二三年には三七・二%、一九二四—二五年には四一・一%、一九二五—二六年には四七・五%、一九二七年には四七・四%だ。

農民の經濟的繁榮が成就され、文化的發達が捗ると同時に、吾人はその活動力の生長を見るのである。右に見た様に、最近の二ヶ年間に選挙への参加は飽和點に達してゐる。

中央諸官廳例へば國家の種々な組織體の如きものは絶えず農村住民の政治的活動力を増大する爲め

に活動してゐるのだ、サヴェートの地方の殆んど向上することのない文化水準を與へられて（之はツアリズムの遺産であつて、僅かばかりの時間で除去することは不可能だ）地方選挙への約半数が選挙に参加したといふことは、最も進歩した國々に比してさへ、既に嘆稱すべき結果であることを知らねばならぬ。サヴェートの選挙の前後に於いてこそ、村の公生活に對する定期的興奮が掻き起こされ種々な階層に屬する住民の利益が宣言されるのである。

一九二六年の或る選挙演説で、サヴェートの一闘士は、その活動力が數々眼につく處の中農やクラーク等に對する適當な政策に關して次の如く主張した。

吾人は、これらの地方に、巨大な中農と同じく一握りの富農・クラークの活動力が増大しつゝあることを觀察するものである。この後者に對しては、吾人は唯一つの政策を持つのみだ、即ち、クラークを孤立化する爲めの果斷な闘争、サヴェートにかゝるその壓力に對する激烈な抵抗である。だが、中農に就いては、之とは反對に、吾人はその政策を持つてゐるし、又持たねばならぬ。吾人は、吾人が常にやつて來た様に、サヴェートの中に彼等の活動力を増大し、此の活動力をサヴェートの流れの中に指導して行くことを提唱するものである。憚うした行動に依つて、吾人は、プロレ

タリアートと中農の同盟を鞏固にしようと努力するのである。

村サヴェートの選挙は、サヴェート地方の凡ての政治生活と同じく、一般的な指針として、貧農中農の同盟を持ち、（先に引用した數字によつて既に見た様に）一緒になつて、一握り程の僅かなクラークに對抗するプロックを造つて進むのだ。彼等は彼等で中農の比較的富かな分派を自分の側に引きつけ自分の経済的優位を利用して村政の指導権を取らんと欲してゐるのだが。

四 如何にして又何故に貧農を組織するか？

貧農は最も分散してゐる、その結果組織に缺けてゐるから、常に自分達の利益を守り得ない様な状態に置かれてゐる。サヴェート農村の社會上及經濟上の發達を扱つた章で、既に我々が見た様に、クラーク（富農）に無暗に數の多いグループを形成してゐる。が、その重要性は、社會主義サヴェート共和國同盟内では資本主義國に於けるよりも、無限に小さい。然しながら、凡ての農業労働者が自分自身の經驗で知つてゐる様に、富農は、彼等の經濟力と貧農の弱點とを利用して貧農を分散せしめ、村の公務の指導権を自分の手に收めようと努力してゐるのである。

類似の傾向はサヴェート同盟内に於ても亦見られる。一般に經濟的進歩の側には、クラーク的要素の一定の復興が確かめられてゐる、勿論、資本主義國に於けるよりは比較的に小さく、貧農の數の減少に平行してゐるのは事實だが（前章参照の事）

そこで最近二年間に、貧農の政治的活動力を覺醒し、彼等の組織を有利にし、村生活の指導の一部を彼等に保證する爲めに、この貧農的要素を糾合する様な或特別な手段が取られてゐる。

既に見た様に、サヴェートは農村労働者の利益を保護し、保證する處の大衆の組織である。で此のサヴェート制度の下には特に貧農丈のグループを持つといふ必要はない。唯彼等の活動力を發展せしめ、彼等をサヴェートの周圍に、協同組合や相互救済組合の様な基本的諸團體の周圍に、より密接に結合すれば充分なのである。

實際上、貧農の組織には次の二形態が認められてゐる。即ち、農村生活の本質的な問題に關して結合した貧農の集會と、サヴェートや、協同組合の管理や、相互救済委員會等に働く貧農のグループと此の二つだ。

最近の選挙の時には、貧農の準備會が持たれ、其處で、選挙に關する色々な問題の検討、サヴェート代議員の候補者の指名等が行はれた。

同じく協同組合の選挙戦の前には、貧農の協同組合員は、候補者を検討する爲めに結合した。

恚うした様々な結合は、貧農的要素に益々粘着力を與へ、村の公的問題に對する興味を増大し、必然的に、一般集會への貧農の廣範な参加を促進する。かゝる貧農の諸結合は、投票の行はれる一般集會の以前に、之が準備協議會（打合會）の役目を果たすのである。此の結合は一般的集會への決議を持つものではない。だが貧農の意見の確固たる宣言を容易ならしめるのだ。

其處で、又彼等は、代議員に與へる委任狀の中に書き込む文章を起草する。此の委任狀は一度一般者の集會で採用されれば、サヴェートや協同組合や相互救済組合等の事業の根底として役立つのである。同じく貧農の此の同盟は、サヴェート又は協同組合管理局への代議員候補者の指定が終るとこれらの候補者を決定的な選挙の行はれる一般者の集會に紹介する。

恚うした色々な同盟は、勿論、貧農が農業労働者大衆から孤立することのない様に組織されてゐる。貧農中農等一切の地方勤勞者の結合を保持し、鞏固にして行く必要から、貧農のかゝる諸同盟體はあれやこれやの提案を準備しながらも、中農の利益を少しでも妨げることのない様に腐心する。

そればかりか、彼等は、自分達の討論に、中農の出席を促がしてゐるのだ。中農は又嬉んで此の招待に應ずる。かくて農業労働者の完全な満場一致が保たれるのである。

これらの同盟に加へるに、サヴェート、協同組合、相互救済組合等の周圍に『貧者のグループ』なるものがある。

このグループは何等特別な権利を持つてはるない。彼等は唯、その成員に、色々な組織の機能よりも、より強力な影響力を及ぼし得る状態を確保すること、そして、如何なる状態に於ても、村の貧者黨の利益を尊重せしめることに専念してゐるのである。

かくて此の貧者のグループは、信用の割當とか、記念事業とか村の改造事業とか……等々の問題を一々検討してから、サヴェートとか協同組合とか相互救済委員会とかへそれぞれ自分達の案を提出するのである。

既に行はれた一切の事項に就いて見るに、最近の二年間に實際に活動した處の慫うした同盟體及び貧農グループは、一九一八年に存在した『貧農委員会』とは絶對に何等の共通點を持たぬものであることか分る。(『市街戦期に於けるサヴェート権力と農民』の章を見よ)

當時に於ては、中農が受動的又は中立的態度を表明したことから、そのころ非常に澤山出て來た處のクラーク的要素の抵抗に打勝つ爲めに、此の瞬間必要な、獨立組織が問題であつたのだ。

選挙に於ける完全な自由が保證され、地方農村にもあらゆる種類の社會的組織が存在する今日では

唯中農と密接な同盟の下に、貧農の活動力を伸長せしめること丈が問題なのである。

貧農の同盟及グループは、従つて、農業労働者即ち労働者階級と同盟して、新しい基礎の上に立つたサヴェート同盟の政治的社會的生活を打建てゝゐる處の——農業労働者とのブロックを鞏固にすることを目的としてゐるのだ。

若しも、サヴェート農村を指導してゐるのは、農村の如何なる要素であるかと問はれるならば、村サヴェートや、郡執行委員會の人物統計が、それに就いての概念を與へて呉れるであらう。

五 サヴェート農村を指導するのは如何なる要素か？

村サヴェートの社會的構成を説明する爲めに、一九二七年に選出された、五四・九七一サヴェートのメンバー成員たる代議員八二一・二一〇人に就いての材料を取つてみよう。

村サヴェートのメンバーに依つて拂はれてゐる耕作税の統計によると、その成員は次の様に集合されてゐるのである。

サヴェート成員	一六・一	一五・八	二四・一	二五・一	一一・七	七・二	一〇〇%
免稅者	以下	1ループル	1—2ループル	2—5ループル	5—10ループル	10ループル以上	計

サヴェート代表 一五・五 一五・五 二五・四 二六・一 一一・三 六・二 一〇〇%

ロシア社会主義サヴェート共和国同盟内には農民出のサヴェート成員が三一・九%を占めてゐるのであるが、右の数字はその中に、或は完全に免税されたもの、或は一ルーブル以下の課税を受けてゐる者が這入つてゐるといふことを示してゐる。地方によつて此の比率は二二・九%から五二・七%の間を上下してゐる。

右の表は、敢て説明するまでもなく、貧農及び中農がサヴェートで指導的役割を演じてゐることを確證してゐる。

次に同じ一九二七年の郡及區執行委員會の社会的構成を考へてみよう。

	1ルーブル以下		2—5		5—10		10ルーブル以上		計
	以下	1—2	1—2	2—5	5—10	10以上	以上		
執行委員會成員	二〇・六	一四・一	二四・三	二五・四	一〇・九	四・七	一〇〇%		
執行委員會代表	二五・二	一三・六	二五・一	二五・〇	八・〇	三・一	一〇〇%		
完全に免税されたもの及び一ルーブル以下の人々即ち貧農が郡及區執行委員會の成員中に三四・七%同委員會代表中に三八八といふ重大なグループを構成してゐる。此の比率はこゝに於て村サヴェートに於けるよりも高くなつてゐるのだ。									

かくて地方に於ける一切の権力機關の指導權は、農業労働者と貧農と中農のプロツクに屬してゐるのである。

サヴェート及び執行委員會の構成が、此の三年間に何う變化してゐるかを示す爲めに、吾人は、さうした機關の成員で耕作税を免ぜられてゐるものが何の位の比率になつてゐるかを示す比較表を提示することが出来る。

	一九二四—二五	一九二五—二六	一九二七
サヴェート成員	八	八・四	一六・一
サヴェート代表	四・九	五・六	一四・〇
郡執行委員會成員	七・八	八・五	二〇・六
郡執行委員會代表	三・五	三・五	二五・二
			%

かくて我々は一九二七年の選挙以後権力機關への貧農代表が驚く可き増加を來たしたことを見るのである。此の増加は、即ち一九二七年に、その前年よりも遙かに多くの家族に耕作税の免除が行はれたといふ事情によつて幾分は説明される。【註一】

更に憚ういふことになる、即ち、一九二七年の数字とその前年のそれとは正確にはそれらの間で比

較さる可きではないのだ。それといふのは、一九二七年に免税者として数へられた農民出のサヴェー
ト成員は、その前年に於ては、譬へその前後に於て財産状態が同じであつたとしても、猶納税者の中
に書き出されてゐたからである。

然しながらそれにも拘らず、此の相違も重大なものではあり得ない。一九二七年の選挙が全體とし
て村サヴェート及び郡當局の中に貧農の数の恐る可き増大を齎したといふことは、動かすことの出来
ぬ事實として残されてゐるのだ。

上掲の数字は、前年には、貧農の要素が活動力に缺けてゐて、彼等が全農家の中に今日占める處の
地位は既に與へられてゐたにも拘らず、猶充分の感化力を振えなかつたといふことを物語つてゐるの
だ。一九二七年には此の状態は、完全に變つてゐる。貧農は中農と共に全サヴェート生活を指導して
ゐるのだ。

更に貧農の指導的役割の一層重大になつてゐることを確めねばならぬ。貧農層の権力機關に於ける
席は増大してゐるにも拘らず、農家全體に於けるその数は、一九二五年に二四%、一九二六年に二一
六%、一九二七年に二〇・四%といふ風に減少してゐるのである。

【註一】こゝでは七月革命十周年に發した中央執行委員會の宣言以前に行はれてゐた法律の事を言つてゐ

るのである。免税戸数の比率はそれまで二五%であつた、處が、人も知る通り、此の宣言は、此の
数を三五%にしたのである。

第六章 サヴェエート平和政策の根底

サヴェエート社會主義共和國同盟の國外政策の根本目的は平和の維持といふ事にある。サヴェエート政府は、此の最初のプロレタリア國家に對する一切の敵對勢力の挑戦にも拘らず、平和の爲の執拗な、不斷の闘争を繼續する。従つてサヴェエート政府は、平和を保持し、戦争の脅威を轉向させることに全力を注ぎながら、プロレタリア國家の完全な獨立を、又時に、弱小民族の完全な獨立を防衛し、帝國主義に壓迫されてゐる植民地半植民地住民にあらゆる援助を與へて、彼等の解放の爲めに闘ふのだ。この世界最初のプロレタリア國家の、労働者と農民との政府たるサヴェエート政府は、かうして労働者階級の利益に立脚した外交政策を以て、幾多の根本的原則を實現するのである。

一 平和の維持には何人が重要か？

サヴェエート社會主義同盟は平和の維持に熱心である。といふのはサヴェエート社會の凡ての階級、労働者階級と農民階級が平和を希望してゐるからである。これら労働者及農民は帝國主義戦争と市街戦とに依つて、帝國主義の干渉と封鎖とに依つて盛りあげられた廢墟の跡に、その國家經濟を築きあげ

たのである。此の經濟的復興期が終つてから後、ロシヤは社會主義的發達の形態に道入つた。社會主義サヴェエート共和國同盟の労働者は新社會新生活を築いてゐるのだ。戦争は此の彼等の熱心な建設事業を妨害する丈である。主要な生産手段及運輸の國民化や銀行の國民化や農村に於ける共同組合の發達や行政上のサヴェエート組織や、國務管理への労働者の参加や經濟の組織的指導や……等々のお蔭でサヴェエート國家の發達は最も急速な飛躍期にある如何なる資本主義國の發達をも凌駕する程急速である。戦争は社會主義的建設を遅延せしめ、労働者と農民の物質的幸福の増大を妨害し、實現の途上にある文化的革命に障礙物を置くものなのである。そこでサヴェエート同盟は平和の爲めに存在してゐるといふことになるのである。

サヴェエート同盟の労働者大衆は、帝國主義國では戦争の爲めの凡ての負擔が労働者農民階級の上に抑しかぶさつてゐることを理解してゐる。サヴェエート同盟の労働者は、プロレタリアの連帶論の爲めと同様に平和の爲めに存在してゐるのである。

二 何人が赤色帝國主義の御伽噺を吹聴することに利益を得て居るのか？

権力が労働者に屬してゐる社會主義サヴェエート共和國同盟には、資本主義國が戦争政策を取る時の

理由にしてゐる様な、そんな理由などはその一つでも存在することは出来ない。サヴェート同盟には、一切の國民に自分で自分を處理する權利を、分裂することさへ出来る權利を認めてゐる。唯かゝる權利を布告してゐないで、實際上實行してゐる、例へばポーランドやフィンランドやレットニアやリトアニアやエストニア等々の例がさうだ。サヴェート同盟は、帝國主義的な如何なる野望をも決して抱かない。新領土を獲得しようなどとは決してしない。それどころか、反對に弱少民族に對す帝國主義の壓迫と闘ふのである。赤色帝國主義の御伽噺は、ほんとうに唯の御伽噺に過ぎないのだ。サヴェート同盟はツァーリスト帝國主義ロシアの凡ての秘密條約を破り棄てた。サヴェート同盟はツァーリストロシアが締結してゐたトルコやペルシヤやアフガニスタン等の損になる不平等條約を全部破棄して同等の權利に立つて新しい條約を結んだのである。サヴェート同盟は亦支那との條約も取消して此の被壓迫國に對しても完全に平等な權利を認めたのである。サヴェート同盟は隣邦諸國の獨立や領土の保全を害する所から、その獨立を防衛してゐるのだ。(後章リトアニアの問題に見よ)。ブルジョアジーや地主共がサヴェート政府が帝國主義的野望を抱いてゐるのだといふ御伽噺を流布するとせばそれこそ自分の國の労働大衆の注意を眠り込ませ、自分達のほんとうの計畫を彼等に陰蔽しようとする努力なのだ。

以上述べ來つたことの凡てが、赤色帝國主義なんてものの存在しないことを、反對に、社會主義サヴェート共和國同盟こそ帝國主義に對抗する弱少民族の唯一の鞏固な支柱であることを、分裂さへも認められてゐる處の民族自決權の原則に對する唯一のほんとうのチャンピオンであることを實證してゐるではないか。

三 社會主義サヴェート共和國同盟と資本主義諸國のそれとの間には實際上どんな相違があるか？

資本家國家に於ては、支配階級たる資本家と大地主の意志を實現しようとする政府が、他の全く同じ性質の政府を相手に資本に是非必要な賣捌市場と原料の源泉とを奪ひ合ふのである。

資本家國家の政策は金融資本の利益に従屬してゐる。それは、經濟的に遅れた國民の富を搾取することを欲し、弱少民族の負擔で資本に利潤を得させる様な新しい進出地を求めゐるのだ。

賣捌市場、原料の源泉、資本の攻圍地(植民地)等への昂進的爭奪戰が資本家政府を帝國主義政策の路へ追ひ込むのだ。侵略の路、弱少民族に對する×力の路、戰爭の路へ追ひ込むのだ。サヴェート同盟は、既に我々が見た様に、その國際政策は、これとは全く反對な原則から發してゐることを、事實に依つて示してゐる。

更に、若し資本主義國家の労働者達が、自分の國の政府の帝國主義的政策に何等の利益を持つてゐないとしたならば、サヴェート同盟の労働者農民は、サヴェート國家の全權を握つてゐるが、何等侵略の計畫を持つものでないといふことが分る譯だ。

それどころか、サヴェート同盟の國際政策はその國民に平和を保持することにのみ専念するものであつて、之は、壓迫者に對して戦ひつゝある處の遅れた國民を、援助するといふ徳義上の必要から發してゐるのである。

サヴェート同盟の労働者農民は恚うした援助を以て萬國の労働者に呼びかけてゐるのである。

かゝるものが労働者農民の全政治に取つての動きなき原則であつて、それはサヴェート同盟の政治的根底の上にあるのだ。而も好都合なことに、實際上社會主義サヴェート共和國同盟の地位は、經濟を發達させ、それを新しい基礎の上に組織する爲めに必要な一切のものを持つてゐるといふ状態なのである、サヴェート同盟は、その工業生産物を賣捌く爲めの市場を必要としない。何となれば、その國內市場は唯に國民化された産業に取つて充分であるばかりでなく、まだその生産では完全に間に合せられない程なのである。此の國の生産力が發達するに連れて、工業及農業が進歩するに連れて、労働大衆の財産が、従つて労働者及勤め人の消費力が増大するのである。その結果市場の問題は、それが

帝國主義諸國に於て取つた様な、戰爭政策への口實を供給し得ないのである。

帝國主義諸國に於て極度に重要な一役を演ずるものは原料の源泉地に對する爭奪戦である。こゝに帝國主義的政策の一因がある。即ちこれが植民地の征服、半植民地の壓迫に導くところのものなのだ。サヴェート同盟はその自然の富と地盤とで最も富有な國の一となつてゐる。地方經濟は、工業及びその他の文化に關する限りに於て無限に發達する可能性を持つてゐる。サヴェート同盟は従つて國際的通商から退かうなどとするものではない。其處で、資本主義的世界に對する關係では、經濟的獨立の傾向があるにも拘らず、多くの國民の間に仕事を分配してゐるのである。然しながら地球の六分の一を占める様な國は唯その國內通商で、その工業に必要な材料を保證し得るのだ。かくて侵略政策は此の方面の原因もサヴェート内では何の役をも演じない。

サヴェート同盟は資本の輸出をやらない。植民地及半植民地に利得を求めないのだ。サヴェート同盟は外債を發行しない。従つて又、帝國主義國で實行されてゐる様な、軍事的占領といふ形式で擔保を取つて置くといふやり方に利益を感じない。サヴェート同盟は植民地を持つことに利益を感じないのだ。反對に、植民地民族の搾取者に對して闘争するのである。従つて吾人はサヴェート同盟を戰爭政策に押しやることの出来る様な唯一つの原因もないことを知るのだ。それどころか、全く反對に全

ての原則及び現實の考慮は、サヴェート同盟を平和の方向へ導いて行くのだ。

七八

四 戦争を煽動するのは誰か？

戦争は、帝國主義者に取つては必要なのだ。彼等の凡ての努力は戦争を惹起する處の、政治的軍事的經濟的狀態を作り上げることに向つてゐる。

戦争は何よりも先づ社會主義サヴェート共和國同盟に對して準備されてゐる。

帝國主義者共は、市場が必要なのだ。處でサヴェート同盟は彼等に取つては最も大きな市場となし得るのだ。若しも國際資本がサヴェート權力を排除し、その外國通商の獨占權の排止を敢行するならば、即ち、經濟的財政的從屬、従つて政治的從屬關係に置いていふならば、これを自由自在に搾取することは容易いこととなるのだ。反サヴェート同盟戦争の準備の先導者は、英國政府だ。事實英國の産業は(鑛山、紡績、軍艦建造、冶金、等々)危態に頻してゐるのだ。サヴェート同盟の存在は、その鞏化は、その生長しつゝある經濟的政治的勢力は、萬國の壓迫階級に意外な一標本を提供してゐるのだ。サヴェート權力が主張する處の國民政治は、自由の爲めに戦ひつゝある被壓迫民衆、被搾取民衆を鼓舞激動する。ロシア革命は一般には植民地及半植民地の、特別には、支那、英領印度、蘭領印度

土耳其、斯波、等々の東洋諸國の何百萬何億萬といふ労働者を覺醒せしめてゐるのだ。農民との同盟を結んだプロレタリアートに依る權力の×取、農民と同盟した労働者階級が既に十年餘の歲月の間權力を維持してゐるといふ事實、サヴェート同盟内に於ける社會主義的建設の成功等は、國際プロレタリアートの階級闘争を未曾有の高さに引きあげたのである。

これら一切の原因が、英國の保守主義者共を先頭とする國際資本をしてサヴェートに對する包圍攻撃政策を計劃せしめたのだ。英國外交は反サヴェート同盟の組織に努力し、サヴェートに對抗する一切の反動的、反革命的勢力を結合する。ポーランドに於て、バルチック諸國に於て、支那に於て、その他に於て、英國外交はサヴェート同盟に對する戦争を激發する。同時に、獨逸に、佛蘭西に、伊太利に、小亞細亞諸國に、チェッコスロバキヤ、ユーゴスラビヤ、ルーマニヤ等に於ける反革命的勢力は、反サヴェート同盟の爲に動員されてゐる。英國の政治家共は、ロシア白衛軍と商議し、彼等の陰謀や、そのテロリズムを支持してゐる。奴等は彼等を間諜組織に利用してゐるのである。この仲間ではどんな手段でも行はれる。サヴェート代表の暗殺までサヴェート銀行手形の偽造までやるのだ。

サヴェート同盟に對して戦争を準備する帝國主義者共の勢力は、同時に、不斷の葛藤に依つて分裂し、彼等相互間の闘争によつて、常にますます深刻化してゐる。國際生活は、殆んど毎日、帝國主義

七九

間に行はれる植民地の獲物のわけ取りや、既成の侵略を鞏固にする爲めの闘争を物語る新しい事實、新しい事件を齎らしてゐる。

我々は知つてゐる、支那に於ける×英米帝國主義者間の葛藤を、又英米間のカナダ、オーストラリアの爲めの闘争を、これは英國の植民地だが、次第にアメリカ資本に侵略されてゐるのだ。更にヨーロッパの諸小國の支配權の爲めの英佛間の葛藤、最後に、猶その外の諸葛藤無数の軍事、的紛争を、我々は知つてゐる。

國際關係の緊張、サヴェート同盟に對する戦争の準備等は、全世界の資本家國家に於ける武器の加度的な増加に明らかに觀察される。

サヴェート同盟に對して凡ての、帝國主義國の、武器を取る準備は出来てゐる。だが、彼等自身の間には存在する葛藤が、まだ彼等に一致することを許さないのだ。

こゝに重大な役目を演じてゐるのは、大小國の帝國主義者共が、全世界の國民大衆は、此の戦争に反對であるといふこと、社會主義サヴェート共和國同盟に對する一戦は全労働者の明らかかな抵抗の爲めに、自ら傷んであらうといふことを、知つてゐるといふ事實だ。

五 如何にしてサヴェート同盟はその平和主義を實現するか？

サヴェート政府の一切の行動は、現實に、平和の維持、有功な平和保證の獲得に向つてゐる。國際政策の最近の出來事を二三丈引用して見よう。

(1) 一九二七年十一月、國際聯盟に依つて召集された軍備撤廢の準備會議に於て、リトヴィノフを代表とするサヴェート同盟の委員達は、四ヶ年内に、全政府の完全な眞實な軍備撤廢を提議したのであつた。全常備軍の廢止、戦争材料製作の禁止、平和政策による一切の葛藤の解決、等々を提議したのである。サヴェート同盟の代表委員は、サヴェート政府は、他の政府が同じ様に軍備を撤廢する限り、これら凡ての方法を實現する準備をしてゐるものといふことを、宣言した。資本家政府の代表者共が、此の提議に反對し、あらゆる手段を用ひて、唯にその實施をサボツタばかりでなく、その討議さへもサボツタといふことを茲に引用することはあながち無用のことではない。更に一層特質的な事柄は、佛蘭西の社會主義者ポール・ボンタールは、サヴェート政府のこの軍備全廢の提議に反對して發言した最初のものであつた、といふことだ。ブルジョア新聞さへ、サヴェート政府は眞實

の軍備撤廢を提議したのだといふこと、然るにブルジョア政府共が此の提議をサボリ、之を押し戻して自分は相變らず熱狂的にX裝してゐるのだといふことを、自ら認めざるを得なかつたのだ。

(ロ) 東方ヨーロッパでは、ポーランドとリトアニアとの葛藤が平和に對する重大な脅威を造りあけてゐる。ピルスツスキーの政府は小リトアニアの合併を準備してゐるのだ。こゝに東洋ヨーロッパを脅威し、續いてヨーロッパ全土を脅威する所の火事の火元が造りあけられるのだ。唯に佛蘭西の大臣ブリアンのみならず、英國大臣のチェンバーレンの如きサヴェート同盟の敵でさへもがサヴェート外交の干渉が葛藤の激化を遮り、可能な難局を豫防したのであるといふ事を告白せざるを得なかつたのである。

(ハ) 最近に至つては、色々な事件がある。その度にサヴェート同盟の敵、特に英國政府がサヴェート同盟を戦争にナビキ出さうとしてゐる。サヴェート政府は平和を保つ爲めにこれらの未曾有の挑戦を冷靜に過してゐるのである。

六 帝國主義政策並にその手先共はどんな風にサヴェート同盟を戦争に煽動するか？

事件は最近まれではない。我々は唯その數例を擧げるに止めよう。

(一) 社會主義サヴェート共和國同盟の代表委員ヴォイコフはヴァルソニイに於いて、白衛軍のカヴェルダに殺された。此の男の屬するその地のX X的機關は、密偵監視の英國警官と密接に連絡してポーランドで活躍してゐたものであつて、此の殺人は、明白に後者の贊助の下に犯されたものであつた。その目的は社會主義サヴェート共和國同盟とポーランドとの間に戦争を惹起せしめ様といふのであつた。唯サヴェート政府の異常な冷靜さが此の危険をそらしたのである。

(二) 一九二七年四月には、強盜張作霖の(軍隊)が北京のサヴェート同盟大使館に侵入した。その凡ての操作は外交團の豫ての賛成の下に成し遂げられてゐた。張作霖は英國外交の煽動によつて動いたのである。その目的は張作霖に對するサヴェート同盟の軍事的干渉を教唆し、此の葛藤にX本を引き摺り込み、そして極東に於けるかゝる一般的形勢を利用して社會主義サヴェート同盟とポーラン

ドとの間に戦争を惹起せしめようとするのであつた。

八四

(三) 一九二七年の夏には、レニングラードの共産主義俱樂部に爆弾が投げ込まれた。此の陰謀はフィンランドに本部を持つてゐる、ロシヤ白衛隊の一組織にその責任がある。捕はれた共犯者達は裁判官の前でフィンランドに於ける密偵監視の英國役人が、彼等はこの計画を實行する爲めの物質的支持を與へたといふことを陳述した。これと同時にサヴェートとポーランドとの國境上にはサヴェート權力の代表者に對する多くの加害事件が惹起された。取調べの結果は、こゝにも亦、英國密偵監視係の共犯があつた。

(四) 英國とサヴェート同盟間の外交上の絶交はそれ自身、前代未聞の挑戦形態を取つたのであるが、ロンドンに於けるサヴェート同盟の商事代表者宅を襲撃した英國官憲は、何等の結果も挙げ得なかつた、にも拘らず、保守黨政府は絶交を欲したのだ。此の外交關係の停止役、英國の反動的中央派は佛蘭西とサヴェート同盟の間に同じ様な絶交を將來する爲めに、佛蘭西の擴大な戦線に乗り出した有名なラコヴスキー事件は、英國の石油資本の登場に過ぎないのだ。サヴェート政府はその大使の更

迭を行つて、一再ならず、ロシヤが平和維持の爲めに全力を擧げてゐることを示した。

(五) 北京の陰謀(二)を見よと同じ計劃で、一九二七年十二月七日ロシヤ白衛隊は、上海の共同租界にあつた、サヴェート同盟の總領事館を襲撃した。此の租界は、實際上では英國の支配下にある英國の壓力、英國のファシスト團體が此の陰謀の助言者だ。ロシヤ白衛隊の尻押をしたのは英國の權力であり、凡てをなすが儘に放任したのは英國の警察である。

同じく一九二七年十一月には、支那の反革命的將校軍が廣東のサヴェート同盟領事館に同じ様な攻撃を敢行し、家屋を掠奪し、館員五名を銃殺した。

見よ、かくの如き未曾有の挑戦の實例を、更にそれと同時にサヴェート政府の平和の意志の輝やかしき證據を！

七 サヴェート政府が他國の政府に干渉したといふのは眞實か？

サヴェート政府がサヴェート同國の敵が確めた様に、ボルセヴィキの宣傳に従事したといふのはほんとうであらうか？

八五

サヴェート政府は多くの國と條約を締結してゐる。が、その中で他國の國內問題には干渉しないといふことを明白に約束してゐるのである。そして今日まで誰もサヴェート政府又はその代表者がボルセヴィキの宣傳に一寸でも携つたといふことを實證し得たものはない。全ヨーロッパに渡つて嘘偽の證據書類を造らうとする計劃が行はれてゐる、處が、ブルジョアの裁判所さへが、そこに嘘偽が行はれてゐる、といふことを認めざるを得なかつたのである。例の有名なデノヴィエフの手紙も同様に嘘偽であつたことが、今日では嚴として調べあけられてゐる。サヴェート政府及びその代表者はボルセヴィキの宣傳に従事しない。何となれば彼等はボルセヴィキ黨を人工的に造りあけるなんてことは不可能だといふことを百も知つてゐるからである。唯サヴェート同盟の存在が、自然に鬭争の決意を階級の力、被壓迫國民の力を増大する。サヴェート政府は、従つて、自國內の労働組合に對して、彼等が鬭争しつゝある他國の階級的兄弟に精神的物質的援助を提供するのを、禁ずることは出来ない。例へば英國に於ける總罷業中、又はその他の罷業に際して行はれた様に、英國政府が、自國の反動がロシアの白衛隊を支持するのを何等妨げないと全く同じく、サヴェート政府は國際××黨の活動を妨げはしない。彼はこれに隠れ家を拒まない。スイス政府が反ボルセヴィキ同盟に隠れ家を拒まないと全く同じだ。

八 何故に社會主義サヴェート共和國同盟は國際聯盟に這入らないか？

それは國際聯盟が現代の神聖同盟であり、大衆を偽瞞する爲めの、反動の一事業であるからだ。國際聯盟は、諸列強が、その帝國主義的目的を××する爲めに造つた一機關なのだ。それは戦争を準備するものであつて、平和を準備するものではない。それは軍備に屏風を立てかける役をするもので、軍備の撤廢を準備するものではない。リトヴィノフの軍備全廢の提議に對するサボタージュが國際聯盟が平和の機關ではなくして戦争の機關であることを示した最上の證據である。國際聯盟は、ギリシヤへのムツソリニーの戦争、佛蘭西によるシリア叛亂の×殺、英國によるタイラーク全經濟的富の掌握、英吉利西帝國主義による委任領土の掠奪、ポーランドのヴィルナ占領、支那に對する干渉、等々を協賛してゐるのだ。あの有名なロカルノ條約は一個の罫であり、帝國主義的詐術の結果である。國際聯盟は世界大戰の後に終結された征服條約を防衛するのだ。それはヴェルサイユ條約、サンヂェルマン、トリアノン、ニューイリー等の各條約の最上の支持者だ。國際聯盟は新戦争の爲めの×器庫であり、これによつて帝國主義者共がその分捕品を保存する處の一手段である。社會民主主義者は勿論國際聯盟の眞實の性質に就いて、大衆に幻滅を抱かしめんとしてゐる。だがそれはその地位を少しで

も變へるものではない。既に今日ではブルジョア政府自身が聯盟を嘲笑し、その存在を眞面目に取らうとはしない。國際聯盟は世界反動の城砦であり、資本主義擁護の一武器である。勿論、社會主義サヴェート共和國同盟は此の聯盟に這入つてゐなかつたし、又這入らない、サヴェート同盟は、國際聯盟に依つて召集された會議に數名の代表を送つたが、それはサヴェート同盟が、此のブルジョア政府の連中が怎うした國際問題を解決し得るなどと考へたからではなく、唯よりよくその本性を曝露する爲めであつたのだ。國際聯盟は被征服者に對する勝ち誇つた權力者の同盟なのであつた。それは、サヴェート同盟に對抗する資本主義的反革命の集團であつた。處が、此の帝國主義黨内の葛藤が増大するに連れて、國際聯盟は少しづつ分解して行くのだ。眞實の國際聯盟は、労働者農民の政府を權力に導く處の××の勝利によることなくしては、設立され得なくなるであらう。

九 何故社會主義サヴェート共和國同盟はファシストの伊太利と交際するか？

社會主義サヴェート共和國同盟は四方八方資本家國家に圍まれてゐる。サヴェート同盟は平和を渴望してゐる。サヴェート・ロシヤも矢張、經濟、社會の兩組織の間に休戦を求めざるを得ない。サヴェート同盟は資本主義世界との通商關係が必要だ、それは全く後者がサヴェート同盟との同じ關係を

必要とするのと同じだ、之等の關係を保證する爲めの生活手段が発見されねばならぬ。そこでサヴェート同盟は、勿論その原則を放棄することなしに、かゝる條約を、それが労働者に受け入れられるものである限り、ファシスト伊太利をも含めた如何なる資本主義國とでも締結すべく決意したのである。

プロレタリア國家としてのサヴェート同盟は資本主義國家との經濟的關係、従つて、外交關係の爲めの生活手段を発見せねばならぬ、その國の労働者階級がブルジョアジーを××する日まで。

十 何故にサヴェート同盟はファシスト・ロシアニアの獨立を防衛するか

社會主義サヴェート共和國同盟は、一般に、小民族の獨立を擁護する。若しもポーランド帝國主義がロシアニアを占領するならば、その結果はロシアニアの労働者農民に取つては自國內にある敵階級の輓の上に更に他國のそれが加はるといふことになるのだ。民族的な壓迫は階級闘争を弱めるであらう。何となれば、労働大衆は、彼等の貧困、彼等の搾取は外國の支配に起因してゐるのだといふ風に信ずるかも知れぬからだ。反對に、民族的解放、獨立は赤裸々な境遇を造りあける。支配階級は國民大衆の貧困の缺陷を外國の帝國主義者に轉換することは出来ない。かくて國民的獨立は、階級闘争の

×發に好都合な、従つて被壓迫階級の解放そのものに好都合な地盤を造りあけるのである。加ふるにリスミアの占領は、ポーランド内に於ける最も帝國主義的な、最も反動的な傾向を深めるであらう。ポーランドに依るニスミアの占領は、その反動としてリスミアの排外主義を強め、階級闘争を弱め、その結果としてポーランドの帝國主義を強めるであらう。更に、リスミアに對するポーランドの計劃は直接戦争の危険を意味するであらう。だから、社會主義サヴェード同盟はリスミア労働大衆の利益の爲めに、平和の利益の爲めに、此の國の獨立を防衛するのである。従つてサヴェード同盟が現在のファシスト政府を支持してゐるといふことにはならないのである。

第七章 社會主義サヴェード共和國同盟内に於ける

教會と國家

一 ツアアの政府と宗教

ロシア國民は色々な宗教を信仰してゐる。ツアアの政府は、オルソドックス派を保護してゐた。オルソドックス教會は正式に支配的教會とされてゐたのだ。

此の派の爲めに造られたかゝる地位は政治的目的を持つてゐた。それはツアアの帝國主義に仕へていたのである。

ツアアの政府は、オルソドックスの人々（大ロシア人及びその他のスラブ人）には他の人種、即ちポーランド人やタタール人やユダヤ人等の持たない政治的經濟的特権を與へてゐた。軍隊は標語として、『信仰の爲めに、ツアアの爲めに、そして祖國の爲めに！』といふのを持つてゐた。かゝる信仰で人々はオルソドックス派の言ふことをきいてゐたのである。だから政府は、非ロシア的帝國の國民を一層容易に壓迫し、その侵略戦争を計劃することが出来たのである。『オルソドックスの信仰』を守る

といふ口實で、政府は、実際には、スラブ民族(パンスラヴィスム)を自己の支配下に糾合し、自己の權力をバルカン諸國の上に据え、亞細亞に、南方或は同じく東方にその侵略を續けることしかしなかつたのだ。

オルソドックス教會は、ロシア帝國主義と××專制政治との行爲を讚美してゐたのだ。

オルソドックスは政府から物質的にも精神的にも支持されてゐたが、それは政府に従屬してゐたのだ。教會の最高權威たる最高聖務院は年二——三千萬ルーブルの豫算を受けてゐたが、その頭部にはツァーによつて任命される非聖職者(高等會計員)を戴くのであつた。

他の宗教は、管理規則に従つて内務大臣と警察とに依存してゐたのだつた。カソリツク及びその他の僧侶は、ツァーの政府を正式に支持し、兵卒をして彼等の宗教に宣誓をなさしめ、その政府と王朝の爲めに祈禱し、その轉職の先々にツァーを莊重に迎へることを強制されてゐた……

その代り、これらの僧侶達は、物質的な利益を受けてゐた、學校に於ける教理問答カテシスマの教授としての待遇とか、色々な儀式(洗禮等)の司催の爲めの臨時収入とかいふもので、それらは此の帝國のキリスト教臣民に取つては義務として實行させられたものなのである。

二 サヴェート權力と宗教

オルソドックス教會の特權的地位は、その教會に恐る可き物質上の富を積み重ねしめた。革命の前に教會は二百六十一萬一千六百三十ヘクタールの土地と、多くの事業會社と、六千萬ルーブルに達する銀行資本とを持つてゐた。此の地位こそが教會に國民、主に農民を擄取する手段を與へてゐたのである。

サヴェート權力は一切の所有地を勤勞的農民に移す爲めに、私有權を××し、その國民化を計つたのだが、この教會の財産も、それが模範的建築物に用ひる爲めに國營領土に轉化されたものを除く外は、殆んど全部農民に返却したのである。

同様に銀行に投資された私有資本の國民化に當つては、サヴェート權力はこれら教會に屬してゐたものを一般に國民化した。

又私的商業、工業の國民化に於てもサヴェート權力は教會に屬するものを國民化した。

あの經濟的、だが、同時に、政治的意義を持つ處の經濟的整理なるものはかゝるものであつたのだが、此の題目内の主要な政治的行動は、一九一八年一月二日の教會と國家との分離に關する布

告である。教會は凡ての政治的役割、凡ての公共機關への參與權を與へたのだ。あらゆる宗教及び信仰は同等に認められ、サヴェート同盟の凡ての市民は、凡てのものを彼の望むがまゝに信ずることも出来るし又信じないことも出来る。同じ權利がツアーの政府によつて追及されてゐた様な宗派にも擴けられてゐる。教會内に於ける宗教宣傳は禁止されてゐない。教會は閉塞されてはゐない。唯僧侶の政治的煽動は、それがサヴェート制度に反對する時に起訴される。宗教問題に關する信者と非信者との間の公然たる討論は認可されてゐて、既に何回となく行はれた。宗教問題に於いての信者の集會又は協議會や教會を中心とした小教區會議の組織等は許されてゐる。教會の財産は享有の名儀で此の會議に置かれ、彼等はその維持の責任を持つのだ。

かくの如きが、一切の宗教に對するサヴェート權力の政策である。更に附言を要することは、宗教上の諸儀式的司祭をその生活手段としてゐる牧師は、サヴェート憲法によつて權力機關への選舉權、被選舉權を失つてゐるといふことだ。だが彼等の家族でも、彼等に依存してゐないものは、之等の權利を失つてはゐない。

要するにサヴェート權力は、教會から強制的役割を取上げ、それと同時に、國家に仕へる義務を免除し、宗教が、官僚的な一制度から、その宗教的役割に於ては、如何なるものも妨害しない様な信者

の自由な組織に變化することを認めたのである。

三 オルソドックス及その他の僧侶達は十月革命に際して

如何に行動したか？

外觀上サヴェート國家及労働者農民の政府に對するオルソドックス教會の態度は、革命の初年とその後とに於て非常に變つてゐる。

此の態度は、サヴェート權力の初めの數ヶ月間に、及市街戰期中、非常に責む可き一特質を帯びてゐた。證據のある重要な事實は恚うだ、凡ての××主義者の破門、並に一九一九年、民衆へのアツピールを以て總主教チクホンがサヴェート政府に對して發した處の呪咀。共產黨員及サヴェート政府員はオルソドックスの教會にも亦、又その他の如何なる宗派にも屬してはゐない。従つて、彼等の破門は何百萬といふ信徒の眼に政治的目的を追及した譯なのだ。その後、一九二〇年に、例の饑饉の最中餓えたる人々の食糧を外國から買ひ入れる爲めに、外國貨幣に兌換される可く、教會の富の一部が×發されることになつた時、之に對する猛烈な抵抗があつたことを挙げねばならぬ。

最も本質的な事實としては、一九二一年にオルソドックス教會とカルロヴィツツ(セルビア)の教會とが結合し、ツアーの高官達や移住したブルジョアジの代表者達が之を援助して、ロシアに於ける

××制の復興計画を練つたといふことだ。

九六

恚うした注目すべき事實は、サヴェート政府及赤軍に反対して發せられた總主教チクホンの命令書や白衛軍に當てられた祝福などを勘定に入れなくとも、オルソドックス教會が、獨裁××制體の復興を計つて、公然と、サヴェート權力に對する反抗運動をしたといふことを證據だてゝゐる。

他の僧侶達の態度も大して變つたものではなかつた。カトリックの僧侶は最も積極的であつた。一九二〇年に、ポーランドの戰爭中此の一派は異端者ボルセヴィキを絶滅せよと民衆を煽動し、自らは間諜行爲に身を捧げ戦地にあるユダヤ人を逆殺せよと申告した。この反革命的煽動は司教のセブリヤークがレニングラードで逮捕され、チエツカの嚴重な通告がなされて後始めて止んだのである。ルーテル派の教師も、猶太教師も同じく戦線に於て又後部に於て反革命的活動をなした。一切の教師が、この光榮の爲めに、彼等の宗派的闘争を放棄したのであつた。例へばルーテル派がチクホんに感狀を送つた如きが一例である。

四 オルソドックス教會の所謂「加擔」

サヴェート政府に對するオルソドックス教會の外観上の態度の變化は、サヴェート權力が内外の反

革命に對して決定的に勝利したことが明らかにされてから起つたのである。

此の時、ロシアの逃亡者達の間に加擔運動なるものが生れた。それは、既に一個の事實として認められたサヴェート政府との和睦を、更に進んでは、新しい經濟的、政治的根底の上に國家を再建する爲めにサヴェート政府との協力をさへ提唱したもので、此の運動が矢張僧侶の或一派を抱え込んだのである。

ツァーの治下では、ロシアの聖職者は二つの階級に分れてゐた。黒い僧侶(牧師及修道士)と白い僧侶(小教區牧師)とである。白い僧侶は黒い僧侶に従屬してゐた。

物質的には、白い僧侶は修道士よりもずつと悪い方であつた。それは屢々農民階級であり、又屢々小ブルジョア又は無産階級であつた。その最も總明な分子はかゝる社會的經濟的理由に押されて加擔運動についた。これらの『加擔者』は恚う解釋したのであつた、即ち、サヴェート權力に對抗する一切の闘争は盡きた、これでは永久に外國移住で生活するか、屈服する可く、努力するより外はなくなつて了ふのだらう、と又血統及社會的地位から見た彼等の親たち、即ち同じ白い僧侶のメンバーは恚

九七

う解釋したのだ、教會が採用してゐるサヴェート政府反對の手段は、信徒の大衆を、彼等から離間せしめ、彼等の社會的、物質的基礎を失はしめる危険がある、と。

此の時からサヴェート國家に對する教會の外部的關係に大方向轉換が始まつた。教會内には續いて一分裂が起り、今日までそのまゝ續いてゐる。

一九二三年五月、白い僧侶の數名がチクホンの許へ出かけて行つて、反革命政策への教會の参加は今後も彼の名前と切離されぬものだから、彼の引退を實行せねばならぬといふことを宣言した。チクホンはかゝる教會の問題の處分方を、全露教議會の召集權を持つてゐる『教會の最高部』に移した。此の最高部は教會の運命を統御する責任を負つたのだ。かくてその夏、七十二人のオルソドックス派牧師の内三十七人は既に革新黨を結んで世間から生ける教會と呼ばれた處のものを組織した。例の教議會の總主教の反革命的役割を不當と判決した。それは、サヴェートの權力を大多數の國民に依つて打建てられた正式な權力として認め、生ける教會は此の權力に従ふ可きことを宣言したことなのだ。チクホンは死ぬ少し前にサヴェート權力に進んで従ふ可きことを信者に誘めた處の一文書を發した。此の宣言は眞實のものであつたらうか？ それを判斷することは困難だ、その原本は彼自身によつて認められたものではない。それは二人の牧師によつて彼の許に差出され、彼はその死の當日に、それを

自署したに止まるのだ。(彼は病氣で或る僧庵に自由な生活を營んでゐたのであつた)

五 オルソドックス教會の分離

オルソドックス教會内に於けるこれらの最初の騷動に續いて、各々その教主、理論家、多少とも急進的な革新的及び改革的プログラムを持つた様々な宗派が出現した。そして是等の諸宗派間に、信徒への支配力を獲得せんとする鬭争が開始された。がそれにも拘らず、教議會に明らかに恚ういふことが觀察された、即ち此の衝突はチクホクンに對して『生ける教會』が發した問責程人氣を得るといふ様な性質を持つものではなかつたといふことだ。

此の教議會の問題、様々なグループ間の論争及び教會の對外的生活は、教會内に經濟的關係から惹起された内部的な改革が完成されたことを示した。即ち、會つて黒の僧侶に屬してゐた處の、教會の領地や物質的財産を、自分のものにしよとす白の僧侶の慾望だ。白の僧侶は監督職の席を獨占し教會の收入を處理し、再婚する等々の權利を横領してゐるのだ。或教會員は、其々の儀式又は教理を攻撃した。彼等は如何なる宗教的奉仕をも一つく彼等流に變更したのだ。サヴェート權力に對しての態度は何うかと云へば、それは、その形式上では、少くも生ける教會流では、忠實的なものとなつ

てゐる。それは屢々サヴェート政府との同盟を締結せんとし、ツアアの爲めにした前代の祈禱にならつてサヴェート政府の爲めにする祈禱の禮式に導かうとしたのである。之等の黨派の中には猶多くのチクホン派の教會員があつて、舊教儀に奉仕してゐたが屢々サヴェート權力に對しての敵對行動及び農村内へのその政策を行つたことは確かである(反協同組合、反學校、シネマ、ラヂオ等等)

かゝるものが大體から見たオルソドックス教會の中につた變化の原因であり、性質である。大部分の信徒は矢張り舊儀式に忠實である。だが同時に、宗教一般からは明らかに遠ざかつてゐる。農民の集會が教會を閉塞して、そこを一つの學校又はその他の教育機關の場所にすることを決定する場合が稀ではないのだ。

六 教會に對するサヴェート政府の態度は變つたか

教會に對するサヴェート權力の政策及びサヴェート政權に對する教會の態度に就いて最近唱へられてゐる處から、一結論が引き出されてゐる。即ち、サヴェート權力はその態度を變へる可き何等の理由をも持たぬ、といふのである。××黨員及びサヴェート權力の方は次第に密接な支持を労働者農民から受けてゐる。労働者農民は資本主義制度に比して社會主義制度が明白に優れてゐることを見てゐ

るのだ。彼等の知識的の進歩は、共產黨及びサヴェート權力の教育的活動のお陰で益々確保されてゐるのだ。信徒の數は益々減じて行く。他方、教會の改革は、それが眞實に變つたといふことで何人も心服せしめることは出来なかつた。大衆は次第によく解放された労働及び科學の重要性を理解し、牧師よりもこの方を信じてゐるのだ。

かくてサヴェート權力の教會に對する政策は何等變りはしなかつた。サヴェート權力は教會をもあらゆる宗派の信者をも少しも壓迫しはしない。一九二七年モスコウに佛教僧侶の集會が開かれた。處がその宗教的寛容さからサヴェート權力を讃仰したのであつた。サヴェートの軍務規定は、宗教的信仰が武器を取ることを禁じてゐる様な個人には、その信仰が眞面目である限り、赤衛軍への義務を解除する。だがサヴェート政府は、労働者の中に活潑な教育活動も行つてゐる。そして、宗教を以て政治的な武器としたり、又はサヴェート權力の社會主義への進歩の健全な行進を妨げる爲めの僧侶又は宗教團體の一切の誘惑を嚴格に禁じてゐる。かゝる誘惑は今日も猶絶えず再生産されてゐる。労働者はそれらを色々な手段で退治してゐる。だが決して暴力に訴へはしない。サヴェート政府は曾つて宗教的信仰に對して暴力など一回も用ひたことはないが、今日は最早何等の方法も講じはしない。

326

2/0

昭和四年十一月三日印刷
昭和四年十一月五日發行

【定價四拾錢】

版	權
所	有

翻譯者	林 証 木
發行者	難 波 孝 夫
印刷者	精 川 男

東京市外西巢鴨町二九二〇

東京市小石川區小日向臺町一ノ五一

發行所 マルクス書房

振替東京三三九八

◇ 粕川藝版所印刷 ◇

終

昭和四年十一月三日
昭和四年十一月三日

印刷者	新川
印刷所	新川
印刷部	新川
印刷部	新川

東京市外西區豊町二九三〇
電話東京三三九八

新川印刷所

◇新川印刷所印刷◇